

2025 年度

事業計画書

社会福祉法人 香南会

目 次

香南会事業運営方針		P 1 ~ 2
業務管理体制に基づく業務監査		P 3
◎総務部		P 4
◎経理部		P 5
◎人事部		P 6 ~ 7
◎教育部		P 8
◎登録支援機関(特定技能・介護)		P 9
◎栄養管理部		P 10 ~ 11
◎防災安全危機管理部		P 12
◎システム部		P 13 ~ 14
◎請求管理部		P 15
◎事故対策室		P 16
◎総合福祉ゾーンはまゆうの里		P 17 ~ 35
◎総合福祉ゾーンオークの里		P 36 ~ 44
◎総合福祉ゾーンキセキレイの里		P 45 ~ 54
◎総合福祉ゾーンもとかかの里		P 55 ~ 65
◎総合福祉ゾーン天空の里		P 66 ~ 74
◎総合福祉ゾーンやだけの里		P 75 ~ 81
◎赤とんぼの里		P 82 ~ 88

◎特別養護老人ホーム 安寿の里		P 89 ~ 90
◎新居浜事業所		P 91 ~ 96
◎専修学校 香南学園		P 97 ~ 98
◎特別養護老人ホームおおいずみの里		P 99 ~ 100
◎有料老人ホーム		P 101 ~ 108
◎特別養護老人ホームおおいずみの里		P 109 ~ 110

2025 年度事業運営方針

法人の基本理念の下、ご利用者・ご家族の皆様に安心していただけるような生活環境の創造に努め、社会福祉法人の使命として地域社会の福祉の充実・発展に寄与すべく事業運営にあたっております。 また、法人として将来を見据えた施設整備、人材確保・育成に努め、社会で求められる福祉需要や生活課題に取り組んでまいります。

2025 年度は、次のとおり重点目標を定め事業を推進してまいります

1 質の高いサービスの提供

- ・ 4 大目標の取り組みを推進し、介護のプロフェッショナルを育てる
- ・ データを活用した多職種連携による質の高いサービスの提供
- ・ 認知症介護の専門職員を養成し介護技術の向上に取り組む
- ・ 医療機関から退院後のケアを担い、看取りケアの内容の充実を図る

2 経営基盤の安定に向けた取り組み

- ・ 各事業所は、施設長が中心となり運営目標を明確にし、着実に取り組むとともに、経営意識向上を図り効率的な運営に努める。

3 施設整備の推進

- ・ 江戸川区特別養護老人ホーム整備事業・・・建築工事は、整備計画に沿って進捗管理を行い、開設に向け地域での人材確保の取り組みを進める
- ・ 香南赤岡苑の改築・・・建築工事を整備計画に沿って推進し、増床に伴う人材確保に努める
- ・ 職員宿舎の整備・・・やだけの里宿舎については整備計画に沿って建築工事完成に向けて取り組む。また、香南市地域においても宿舎の整備を推進する。
- ・ ながはまの里隣接地の整備・・・就労支援事業所の園芸用地として整備を進める。

4 人材育成・確保対策

- ・人材確保対策については様々な媒体を用い効果的な求人活動を推進する
- ・職員宿舍の整備等、職員の定着率向上に向けた取り組みを進める
- ・インターンシップから採用につなげる取り組みを推進する
- ・研修参加や資格取得を引き続き促進する
- ・外国人介護職員の介護実践力の向上を図る

5 専修学校香南学園の運営

- ・介護福祉士養成機関としての使命を果たすため、介護福祉士資格取得に向けた勉学の強化と生活の支援に取り組む

6 働きやすい職場環境

- ・各種休暇制度等の利用促進を図る
- ・電子決済や web 会議を推進する

7 危機管理対策の推進

- ・香南会自然災害（地震・風水害・土砂災害等）対応基本方針に基づき事業所ごとに防災に取り組み、BCP 等を踏まえた業務継続に向けた実践を進める

8 地域との連携

- ・社会福祉法人の使命として地域社会のニーズ把握と地域資源やネットワーク等を活かした取り組みの推進する

業務管理体制に基づく業務監査

基本方針

法人が運営する各種事業について、施設長及び副施設長による業務監査（関係法令に基づいた事業の運営状況の確認と評価）を行うことにより、法令を遵守し業務を適正に遂行させます。また、運営指導マニュアル等に沿って、効率的な実施を目指すとともに職員の育成を図る機会とします。

年度目標

- 1 関係法令を遵守し、適正かつ安定した事業運営を目指す。
- 2 厚生労働省の運営指導マニュアル等に沿って、効果、効率的な実施を目指す。
- 3 主任、管理者等が正しい知識をもって事業運営に携わることができるよう、必要な指導、助言を行い育成する。

総務部

基本方針

法人全体の事務業務を取り扱う部署として、法人の事業運営方針に従い各部署と連携を図り丁寧、迅速、的確に業務遂行に努めると共に、常に創意工夫、能力向上を念頭におき業務にあたります。

年度目標

- 1 円滑な法人運営ができるよう執行部の指示に従い業務に取り組む
 - (1) 社会福祉法等関係法令などの動向に、迅速に対応し知識を深め、法人運営に活かせるように努めるとともに、6月に予定されている役員、評議員の改選に伴う諸手続きについて遺漏なきように努める。
 - (2) 社会福祉法に則り、常に迅速、正確な情報公開に努める。
 - (3) 業務管理体制組織図に従い、迅速かつ的確な事務処理に対応できるよう努める。
 - (4) 庶務業務の省力化に努める。
- 2 施設整備事業等の推進
 - (1) 香南赤岡苑移転改築計画について、関係部署と連携を図り、円滑に計画を推進するとともに、補助金申請手続きをはじめ諸手続きの迅速的確な対応に努める。
 - (2) (仮称) 特別養護老人ホームはるえの里整備事業について、東京都および江戸川区との諸手続きについて迅速的確な対応に努める。また、工事期間中の関係各所の対応についても丁寧に対応し、円滑な事業推進に努める。
 - (3) 東京都特別養護老人ホーム等新規整備案件の情報収集に努める。
- 3 事業所内保育所やまもも
 - (1) 定員増員および移転改築計画について、円滑に計画推進できるよう努める。
 - (2) 事故防止、職員の質向上を目指し、外部研修に参加するとともに自己研鑽に努める。

経理部

基本方針

事業運営の収支状況及び財務状態を明らかにし分析を行うことに加えて、関係施設長・部長とヒアリングを行い、共同して経営の安定化を目指し収支改善に努めます。また、外部への情報公開をするにあたり、関係法令に則り、適切且つ効率的な事務処理を行います。

年度目標

1 会計監査について

- (1) 会計監査人の監査につき、会計基準との整合性はもとより、法令順守を徹底し、施設整備等の特殊な事例に対しても適切に対応にあたる。

2 運営収支および財政状態の把握について

- (1) 財務諸表作成に関して、実施する事業の区分を設け、収支状況を明らかにし、資料を用いて分析を行う。また、分析結果を会議等の場へ提供し、幹部職員が経営管理・戦略を行う上で役立てることができるよう努める。
- (2) 関係施設長・部長とヒアリングを実施し、物価高騰や処遇改善などの課題を抱える中でも経営の安定化を目指し、共同して収支改善に努める。

3 データ入力自動化の推進

- (1) 事業拡大により会計処理業務が増加する中でも、データ入力業務を効率的に行っていくことにより、入力時間の短縮や入力ミスの削減に努める。

人事部

基本方針

慢性的な介護従事者不足と定着が課題です。多様な人材の活用に目を向け、ワークライフバランスに配慮し職員のニーズを把握し、多様な働き方の提案や時間外労働縮減、育児・介護との両立支援に継続的に取り組むことで人材の確保・定着に繋がります。

また、深刻な人手不足を背景に、最低賃金の引き上げにより人件費の上昇や社会保険料負担増などの課題もありますが、採用競争に対応できるように取り組みます。

年度目標

1 持続的な人材確保

- (1) 採用ターゲットの属性等に応じて情報の発信方法や情報の提供内容を柔軟に変化させることで福祉マンパワーの確保に努める。また、江戸川区特別養護老人ホーム整備事業や香南赤岡苑移転改築計画などの施設整備の推進に必要な人材の確保を強化する。
- (2) 外国人介護職員の離職防止・定着に向けて適正な処遇や互いに良好な人間関係を構築できる環境整備や社宅整備などの生活面でのサポート体制の拡充を図る。また、育成就労制度への転換にあたりよりスムーズに移行できるよう労務体制の整備に努める

2 定着のための職場づくり

- (1) 働き方改革を実現するため高年齢者、女性、障害者、外国人など多様な人材の活用に向けた取組を促進し、ハラスメント防止対策や労働災害防止対策を徹底することで定着を目指すための体制づくりに取り組む
- (2) 労務関係手続きなど事務作業の軽減や情報共有が迅速に行えるよう電子申請への転換を積極的に進める。
- (3) 労働力不足を背景に非常勤職員の就業調整に関連する制度や育児・介護休業法改正について、職員に働き方や改正内容を理解してもらうよう周知活動に努める。

人事部 用語解説

育成就労制度：技能実習制度を発展的に解消して人材育成と人材確保を目的とする育成就労制度を創設。これまで技能実習制度において指摘されてきた課題を解消するとともに、育成就労制度と特定技能制度に連続性を持たせることで、外国人が日本で就労しながらキャリアアップできる分かりやすい制度を構築し、長期にわたり日本の産業を支える人材を確保することを目指す制度
改正法の公布日（令和6年度6月21日）から起算して3年以内に施行される予定

教育部

基本方針

質の高いサービスを提供するため、職場内訓練や研修を行い、職員の介護技術や知識の向上を図ります。また、勉強会を開催により職員の資格取得を推進します。特定技能職員、技能実習生については、受入れ、支援を適切に行っていきます。

年度目標

1 質の高いサービスの提供

- (1) 4大目標の取り組み推進を念頭に置き、研修内容を検討していく。研修は計画どおり行う。

2 人材育成・確保対策

- (1) 介護福祉士国家試験、介護支援専門員実務研修受講試験の合格者増加を目指し、受験者のニーズに合った勉強会を開催する。
- (2) 特定技能職員、技能実習生の介護技術を向上させるため、職場内訓練を行い、日本語能力をつける学習方法や授業時間を工夫する。また、業務に集中できるよう適正な在留管理や生活支援を行う。

登録支援機関

基本方針

特定技能所属機関としての知識と経験を生かし、委託者所属の特定技能外国人に対して適切な支援を実施します。

年度目標

1 適切な支援の提供

- (1) 委託者に対し、特定技能外国人受入れに関する援助や助言を正しく行う。
- (2) 特定技能制度と関係法令の最新情報を常に把握する。
- (3) 出入国在留管理局への届出、申請に遅延や遺漏がないよう留意する。

栄養管理部

基本方針

利用者に対し適切かつ持続可能な栄養管理を行うために、効率的、効果的な給食管理業務を推進し「食べること」を支援する。

年度目標

- 1 筋肉量・筋力や骨量減少による転倒や骨折、嚥下障害、加えて認知機能低下など利用者の健康障害に直結する低栄養の対策とケアに努める。
 - (1) 新調理システム導入の意義を理解し、栄養量や形態など栄養計画に示した品質どおりの食事が提供されたか、その確認と評価を含めた給食管理業務を遂行する。
 - (2) 利用者の栄養状態を的確に評価・判定する能力をさらに高め、栄養ケア・マネジメントの効率化を図りアウトカム（効果）を出す。
- 2 給食に係る収支の状況を把握する。
 - (1) 食材、消耗品や備品の物品管理を徹底し、コストの最適化に努める。
 - (2) 厨房設備や機器を適切に管理し、定期的なメンテナンス、または計画的な買い替えを行う。
- 3 災害時においても継続した給食提供を行うために、各事業所の実態に即した体制整備に取り組む。
 - (1) マニュアルや食料備蓄の確認を定期的に実施し、随時改善と更新を行う。

栄養管理部 用語解説

給食管理：プロセスとして献立の調整、調理・配膳、食材管理、感染対策
食品衛生管理を指す。

栄養ケアマネジメント：栄養状態のリスクを判定（スクリーニング）し、その評価・判定（アセスメント）のもとに栄養ケア・栄養プログラムを計画・実施する。これによる栄養状態の変化の観察（モニタリング）から、さらに評価し、この結果をみて改善や調整を加えていく（フィードバック）過程

新調理システム：従来の調理方式であるクックサーブに加え、真空調理法、クックチル（クックフリーズ）、ニュークックチル、凍結含浸法、アウトソーシング（外部加工品活用）の複数の手法を、それぞれの厨房が抱える条件に最も適したシステムとして運用する仕組みのこと。

クックサーブは、当日、食事時間ごとにその都度調理を行う従来の調理方式で、アウトソーシングされた加工済みの食品を最終調理して提供することもある。

クックチルは、計画的に加熱調理した食材を急速冷却後に、チルド（0～3℃）状態で一定期間保存し、喫食時間に合せ再加熱を行い盛り付け料理を提供するシステムである。

クックフリーズの場合、工程はクックチルシステムと同じだが、冷却と保存の温度を、食材の芯温ベースで-18℃以下とする。ニュークックチルは、調理後冷却された食品を、高度な衛生環境のなか食器に盛り付け、その後再加熱専用のキャビネットやカートに収納し、冷蔵、再加熱、温蔵と料理を計画的に再加熱するシステムである。

真空調理とは、一例をあげると素材を下ごしらえした後に、素材を調味液と一緒に真空包装し、そのまま温度と時間管理が正確に行える加熱機器にて低温加熱する調理法である。

また、これをベースに、凍結し解凍した素材に酵素を添加し真空包装し調理するのが凍結含浸法である。

防災安全危機管理部

基本方針

法人の防災安全を担う部署として、各事業所で想定される自然災害（地震・風水害・土砂災害等）に対して、利用者及び職員の生命を守ることを最優先する避難訓練を推進する。

また、施設・事業所、公用車の安全性を確保し、利用者の快適性や安心を確保できるように維持管理を主導する。

年度目標

1 防災について

- (1) 各事業所が想定される災害について、リスク回避ができる訓練内容であるか確認し、訓練課題を改善するよう主導する。
- (2) 防災に関する外部研修に積極的に参加し、知識の共有化に努める。
- (3) 自然災害（原子力災害や人災）を含む情報が発信された場合は、その詳細を確認し事業所と情報共有を行い対応に努める。

2 施設（事業所）、公用車の管理について

- (1) 各事業所管理者に老朽箇所の適宜対応、消防用設備点検等の定期検査を行い施設の維持管理に努めるよう主導する。
- (2) 法人車両の老朽化が進んでいるため計画的な車両の入替えを行う。また、法人公用車の法定検査日を管理し、車検整備情報更新や走行距離管理等を行う。

システム部

基本方針

システム業務

デジタル技術を最大限に活用し、介護業務の効率化を図ることで職員の負担を軽減し、利用者様へのサービス品質を向上させることを目指します。最新技術を可能な限り導入し、安全性と利便性を兼ね備えた運営体制を構築します。また、職員と利用者様の双方にとって安心できる環境の整備を目指します。IT スキルやリテラシーの向上は継続的に行っていきます。

広報デザイン業務

地域社会に向けた効果的な広報デザインを重視し、施設の認知度を高めるための情報発信を行い、視覚的に訴求する質の高いデザインを通じて求人活動などを支援します。

年度目標

1 システム部門

(1) 業務効率化

紙資料の保存を電子ファイル化し、電子決裁システムの活用をさらに推進することで情報管理のデジタル化を推進する。これにより、業務プロセスの簡略化と情報共有の迅速化、正確性の向上を図る。

(2) IT スキル・リテラシー向上

職員向けにオンライン研修を希望者に実施し、基本的なPC操作やMicrosoft Office 製品の活用スキル向上を図る。業務効率化に寄与するITスキルの普及を目指す。

2 広報デザイン部門

(1) 情報発信の強化

施設のウェブサイトやSNSのコンテンツを充実させ、日々の活動やイベント情報を広く発信する。これにより、施設の取り組みを積極的にアピールする。

(2) ブランド力向上

デザイン性の高い広報物を作成し、施設のイメージ向上をさらに図る。また、広報誌の内容を充実させ、施設の魅力を伝える媒体として活用する。

システム部 用語解説

リテラシー (literacy)

一般的には「読み書き能力」を指しますが、この場合は「情報リテラシー」＝情報を収集し、分析し、正確に活用する能力。「デジタルリテラシー」＝コンピューターやインターネットなどのデジタル技術を使いこなす能力。というような意味で使用されます。

Microsoft Office製品

Microsoft社が提供するオフィスソフトウェアの総称で、文書作成、データ管理、プレゼンテーション作成、コミュニケーションなど、ビジネスや個人の生産性を向上させるためのアプリケーション群です。代表的なものでは

1. Word
文書作成ソフト。レポートや手紙、提案書などの文書作成に適しています。。
2. Excel
表計算ソフト。データの集計・分析、グラフ作成、財務管理などに利用されます。
3. PowerPoint
プレゼンテーションソフト。スライドを使った視覚的なプレゼンテーションに使用されます。

などがあります。

請求管理部

基本方針

法人が運営する施設等の請求業務（介護報酬、支援費、措置費、県費など）について、各々の法令に基づき正しく請求処理が行えていることを確認、把握、分析をし、コスト意識を持って安定した収入を確保できるよう努めます。

年度目標

- 1 毎月の請求業務について
 - (1) 各事業所からの実績情報に誤り等がないことを確認する。またそれを元に、請求ソフト（WINCARE）等に正しく入力できているか、入力漏れはないかなど正確に請求処理が行われていることを確認し、返戻や過誤がないように努める。
- 2 請求内容（体制、加算）について
 - (1) 各事業所で算定している体制・加算等を把握し継続して算定できるよう事業所と情報を共有する。また関係機関からの情報についても早期に収集し新たに算定可能な加算を提案するなど安定した収入確保を目標に努める。
- 3 正確且つ迅速な業務遂行について
 - (1) 定期的な制度改正や、人事異動に伴い事業所の管理者や相談員等が変わることも視野に入れ、常に正確迅速な請求業務を遂行するために、研修等に積極的に参加する。また、関係職員（相談員、管理者など）を対象に請求ソフト（WINCARE）等を上手に活用することで操作誤りの減少や、入力時間の短縮に繋がることから説明会などの開催や、各保険制度（介護保険等）以外に、生活保護法や社福減免、原爆助成金など収入に関わる制度についての知識を深め経営意識の向上に努める。
- 4 報酬等及び利用者負担金の回収管理について
 - (1) 介護報酬等では返戻などにより請求漏れがないように、利用者負担金では長期末納とならないよう留意し関係部署と連携を取りながら回収管理を行う。

事故対策室

基本方針

法人全体の状況を正確に把握し、エビデンスに基づいた安全管理を徹底することで、利用者の尊厳と権利を守りながら、医療・介護事故の削減を目指します。また、各事業所および各部署が連携し、事故に関する知識の向上や介護の質の向上に努めることで、透明性を確保した法人全体の安全管理体制の構築を目指します。

年度目標

- 1 科学的根拠に基づく安全管理を徹底し、医療・介護事故の低減を目指す。
 - (1) リスクマネジメント体制の構築
 - ① 科学的根拠と事例分析に基づき、予防可能な事故を確実に防ぐ。
 - ② 事故やヒヤリハットの報告と分析プロセスの透明性を確保し、PDCAサイクルに基づく改善を行う。
 - ③ 環境要因、利用者特性、業務プロセスにおける潜在的リスクを定期的に評価し、具体的な予防策をハード面及びソフト面含め策定する。
 - (2) データベースの構築
 - ① 事故報告データを継続的に収集し、リスク傾向や再発防止策の有効性を統計的に分析する。
- 2 職員の安全教育と介護の質向上
 - (1) 最新の研究成果や事例検討を活用した研修を行い、事故やヒヤリハットの適切な記録方法を学び、全職員がその重要性を理解さす。
 - (2) 中間管理職に対し、安全管理の知識と介護技術が身につけられる研修を実施することで、職場での安全管理活動をマネジメントできる能力を育成する。
- 3 安全管理体制の構築
 - (1) 現場からの報告を基に原因を分析し、迅速に改善策を提示することや業務の中でリスクマネジメント指導やフィードバックを行い、現場に即した安全管理体制を構築できるよう努める。
 - (2) 各事業所および各部署の連携状況を定期的に評価し、連携の課題や改善点を特定し、体制の見直しや連携の質を高めるよう努める。

総合福祉ゾーン

はまゆうの里

- ・ 総合福祉ゾーンはまゆうの里 ……P19
- ・ 特別養護老人ホーム 香南赤岡苑 ……P20
- ・ デイサービスセンター 陽だまり ……P21
- ・ 生活介護事業 いきいき ……P22
- ・ ケアハウス ぬくもり ……P23
- ・ ヘルパーステーションはまゆう ……P24
- ・ ヘルパーステーションうみ風 ……P25
- ・ ヘルパーステーションはま風 ……P26
- ・ ケアプランセンター はまゆう ……P27
- ・ グループホーム せんだんの里 ……P28
- ・ グループホーム きんもくせいの里 ……P29
- ・ グループホーム ゆうりこう ……P30
- ・ グループホーム ふなとの里 ……P31
- ・ 老人保健施設しお風 ……P32
- ・ 老人保健施設しお風通所
リハビリテーション ……P33

・訪問看護ステーションあおぞら ……P34

・訪問看護ステーションキセキレイ ……P35

総合福祉ゾーン はまゆうの里

基本方針

はまゆうの里では、質の高いサービスの提供を目指し、職員一人ひとりの経験、キャリアステージに応じた人材育成に力を注ぎ、業務改善、生産性向上の推進と一体的に働きやすい職場環境の整備や、安心、安全を支える危機管理体制の強化に取り組んでまいります。また、事業の中核を担う職員のマネジメント能力向上を図り、経営基盤の安定化を推進することで、組織全体の持続的な成長を実現してまいります。さらに今年度は本格化する香南赤岡苑移転新築工事、職員宿舎建築において、進捗状況を適正に管理するとともに、増床に向けた広報活動を充実させ、新規利用者の獲得と必要な人員の確保に努めます。

目標

- 1 人材育成の強化による質の高いサービス提供
- 2 働きやすい職場環境の整備と危機管理体制の強化
- 3 マネジメント能力の向上と経営基盤の安定

特別養護老人ホーム 香南赤岡苑

年度目標

1 人材育成の強化による質の高いサービス提供

(1) 外国人介護職員のスキルアップを目指す。

- ① 日本語学習時間の確保、オンライン学習ツールの提供等を通じて、継続的に言語能力向上をサポートする。
- ② 個々の育成計画に応じた指導を実施し介護技術の向上を図る。
- ③ 業務内での OJT、研修への参加を促し、認知症の適切な理解と対応方法を学ぶ。

(2) 認知症ケアの強化を図る。

- ① 認知症リーダー研修等へ参加し、次世代の指導者の育成に取り組む。
- ② 法人内の勉強会への参加や自主学習を通じて、認知症ケアの知識向上やケア技術向上に取り組む。

2 働きやすい職場環境の整備と危機管理体制の強化

(1) 安心して柔軟に働ける職場環境を実現する。

- ① 生産性向上委員会において、サービスの質の向上や職員の負担軽減、利用者の状態の変化等について把握・分析し職場環境の改善を図る。

(2) 自然災害に備えた危機管理体制を構築する。

- ① 南海トラフ地震に備え、計画的な防災訓練を実施し、振り返りを通じて適宜 BCP の見直しを行っていく。
- ② 有事の際の安否確認や情報収集・拡散がスムーズに行えるよう InCircle を活用した通報訓練を定期的実施する。

3 マネジメント能力の向上と経営基盤の安定化

(1) 管理者等の主要職員が必要な知識・技術等の習得を目指す。

- ① 年間研修計画を立案し、法人内外の管理者研修等へ参加する。
- ② OJT を活用し、中堅以上職員を対象にした指導・育成を実施する。

(2) 次世代職員を育成し、経営基盤の安定を図る。

- ① 特養会において運営状況を把握、共有し、課題を検討することで多職種全体で経営意識の向上を図っていく。
- ② 人事部と連携し、職員確保に向けた取り組みを推進する。
- ③ 計画的な広報活動を継続し、入所稼働率 98%、短期入所稼働率 90%以上を目指し、移転新築に向けた利用者確保につなげる。

デイサービスセンター 陽だまり

年度目標

- 1 人材育成の強化による質の高いサービス提供
 - (1) 質の高いサービスを提供できる職員を育成する。
 - ① 職員の実務経験や技術等に応じた研修計画を立てる。
 - ② 法人内外の研修に参加し、技術や知識の向上を図る。
 - ③ 伝達講習等により知識や技術を共有し、各自が実践に繋げていく。
 - (2) 認知症利用者の心身機能に応じ、統一したケアを行う。
 - ① 情報共有を行い、利用者の状態を反映させた通所介護計画書を作成、適宜評価を行う。
 - ② 個別性のある利用者に合わせてサービスを実施する。
 - ③ 家族や関係事業所と連携を図り情報を共有する。
- 2 働きやすい職場環境の整備と危機管理体制の強化
 - (1) 職場環境の改善、業務の効率化等を検討する。
 - ① 現場の課題の抽出、分析を行い、業務改善に取り組む。
 - ② 業務の明確化と役割分担、マニュアルの作成、見直しを行う。
 - ③ 職員間の声掛けを増やし、協力、助け合いの意識を高める。
 - ④ 年間計画に沿って有給休暇を取得する。
 - (2) 様々な自然災害に備え防災訓練や対策の強化を図る。
 - ① BCP をもとに、計画的に防災訓練を実施し、災害時にスムーズに動けるよう意識向上に努める。
 - ② 様々な災害に対応した実践的訓練を実施する。
- 3 マネジメント能力の向上と経営基盤の安定化
 - (1) 稼働率 96%以上を目指し、事業運営の安定化を図る。
 - ① 個々の健康状態の観察を行い、早期に体調不良等の変化に気づく。
 - ② 担当者会議にて情報交換、情報収集を行う。

生活介護事業 いきいき

年度目標

1 人材育成の強化による質の高いサービス提供

- (1) 職員一人ひとりのスキルアップ及び専門性を高める支援を行う。
 - ① 内部研修計画に沿って研修に参加し、知識、技術の向上を図る。
 - ② 職員個人の年間目標を設定しスキルアップを図る。
 - ③ 経験年数に応じた各種資格取得を目指す。
- (2) 障害特性に応じた支援方法を取得する。
 - ① 職員会での情報共有、マニュアルの修正、周知を行い、統一されたケアを目指す。
 - ② 四半期毎に事例検討会を開催し、各利用者に沿った支援とは何かを協議する。

2 働きやすい職場環境の整備と危機管理体制の強化

- (1) 職員が安心して働ける職場作りを目指す。
 - ① 福祉機器等を適切に使用することで、職員に負担の少ない介助方法を検討する。
 - ② 年5日以上の有給取得を計画的に行う。
- (2) 自然災害等に備え安全な職場環境を作る。
 - ① BCP 運用に伴うマニュアルの見直しと周知を行う。
 - ② 各事業所と合同で行われる防災訓練で連携を図る。
 - ③ InCircle を用いた連絡訓練に参加し、緊急時の連絡体制を整備する。

3 マネジメント能力の向上と経営基盤の安定化

- (1) 主要職員の能力向上へ研修参加を行う。
 - ① 主任、リーダー向け研修へ参加し知識、技術の向上を図る。
 - ② 面談の場を設けて計画的に次世代職員の育成を図る。
- (2) 事業所の稼働、収支状況を把握し、増減の要因を的確に分析を行う。

ケアハウスぬくもり

年度目標

1 人材育成の強化による質の高いサービス提供

- (1) 計画的に研修へ参加し、高齢者介護に携わる職員としての専門性を高めていく。
 - ① 法人内外の研修への参加を促し、職員のスキルアップを図る。
 - ② 職員間で知識、技術の共有を図り、実践に繋げていく。
- (2) 多職種と連携し、様々なニーズ把握、質の高いサービスを提供する。
 - ① 入居者の特性・身体機能の把握に努め、個々に合わせたチームケアを実践する。
 - ② ヒヤリハット報告書を活用し、危険箇所の除去・改善を行い、重大事故を未然に防ぐ。

2 働きやすい職場環境の整備と危機管理体制の強化

- (1) 職場環境の改善、業務の効率化等を検討する。
 - ① 関係職種との意見交換を通じて、職場環境の見直し・改善を行う。
 - ② ICT 技術等の活用を用いながら、適切な記録管理体制を推進する。
 - ③ 各種休暇制度の取得推進に努め、ワークライフバランスを推進する。
- (2) BCP(事業継続計画)の実践、具体的な運用を行う。
 - ① 継続的に実践的な訓練を行い、各職員の役割の周知を行う。
 - ② 連絡ツール(Incircle)の定期的な訓練を行い、緊急時の情報把握、早期対応に努める。

3 マネジメント能力の向上と経営基盤の安定化

- (1) 稼働率の安定化と増減の要因の分析
 - ① 毎月の稼働、収支状況を把握し、その増減の要因を明らかにする。
 - ② 待機者常時2名以上確保し、スムーズな入退所調整を図り、稼働率98%以上を維持する。
 - ③ 法人の活動内容、施設の状況等の説明を取り入れ、月30件以上の広報活動を実施する。

ホームヘルパーステーション はまゆう

年度目標

1 人材育成の強化による質の高いサービス提供

(1) サービス提供責任者の育成を行い、質の向上を図る。

- ① 個別研修計画の目標に沿って研修に参加し、知識を深める。
- ② サービス提供責任者の研修に参加する。

(2) 認知症ケアの理解を深める。

- ① 認知症ケアの勉強会を行い、知識を共有する。

2 働きやすい職場環境の整備と危機管理体制の強化

(1) 業務改善の必要性を理解し、質の向上へと結びつける。

- ① 年5日の有給休暇の取得。
- ② 毎月の会議で情報共有を行い、PDCAサイクルを活用し業務改善を図る。

(2) 防災、感染症の対策強化

- ① 事業継続計画、指針等に基づき、必要となる研修を行う。
- ② 全職員に事業継続計画を周知する。

3 マネジメント能力の向上と経営基盤の安定化

(1) 事業所の運営状況の把握と安定した運営

- ① 毎月の運営会議で収支の状況を把握、共有しサービス調整を行う。
- ② 関係事業所と連携を図り、利用者個々に適したサービスを提供する。

(2) 中堅職員向けにリーダー研修等を取り入れ、次世代の育成に繋げる。

ヘルパーステーション うみ風

年度目標

1 人材育成の強化による質の高いサービス提供

(1) 職員一人ひとりの専門性の向上。

- ① 個人研修計画に基づき、全職員が施設外研修に参加する。
- ② 認知症の勉強会を行い、認知症ケアの知識を深め質の高いサービス提供につなげる。
- ③ 毎月の勉強会において、職員個々が参加した研修内容を報告し知識の共有に努め、能力向上に取り組む。

2 働きやすい職場環境の整備と危機管理体制の強化

(1) 職場環境の改善に向けた取り組みを行う。

- ① 業務の見える化を行い、安定したサービスが提供できるよう努める。
 - ② 全職員が有給休暇を年5日以上取得する。
- ##### (2) BCPに基づいた研修、訓練を実施する。
- ① 感染症及び災害時に係る業務継続計画に基づき、研修、訓練を実施する。
 - ② 職員全員に感染症及び、災害時の業務継続計画を周知する。

3 マネジメント能力の向上と経営基盤の安定化

(1) 利用者個々に応じたサービスを提供できるよう取り組む。

- ① 他事業所と連携を取り、利用者個々に応じたサービス提供ができるよう努める。
- ② 業務手順を見える化し、安定したサービスが提供できるよう努める。

(2) 次世代職員の育成

- ① サービス提供責任者を育成し、事業所の体制強化を図る。
- ② リーダー向けの研修へ参加をする。

(3) 非常災害時に備え体制を強化する。

- ① 訪問先の施設や地域の防災訓練に参加し、非常災害時に備える。

ヘルパーステーション はま風

年度目標

1 人材育成の強化による質の高いサービス提供

- (1) 法人外研修への参加や資格取得を推進し、個々に応じたスキルアップを目指す。
- (2) 認知症ケアの勉強会を行い、知識、理解を深め介護力の向上を図り、サービスの質を高める。
- (3) 職員個々の資質向上を図るとともに、訪問介護員としての専門性、実践力を身につける。
 - ① 職員個々の目標に沿った年間研修計画を立案し、施設内外の研修に参加しスキルを養う。
 - ② 毎月の職員会で研修報告や勉強会を実施し、職員間で知識、技術の共有を図り実践につなげる。

2 働きやすい職場環境の整備と危機管理体制の強化

- (1) 職場環境の改善、業務の効率化等の検討
 - ① 有休を5日以上取得し、定期的に職員面談を行い、職員の気持ちに添った対応を行い職場への定着を図る。
 - ② 業務の見直しで課題を共有し、改善について取り組む。
- (2) 事業継続計画（自然災害対策）の実践、具体的な運用
 - ① BCP マニュアルの周知と見直し、定期的な訓練と研修を実施し、全職員が迅速に行動できるように周知徹底する。
 - ② 各種災害に対応した実践的訓練、InCircle を活用した連絡体制訓練を実施する。

3 マネジメント能力の向上と経営基盤の安定化

- (1) 主任、リーダー向け研修への参加を推進し、後進人材の育成に取り組み、事業所の体制強化を図る。
- (2) 事業所の運営状況を適切に把握し、毎月の収支状況、その増減の要因を分析し、関係事業所との情報共有を図りサービス提供を行う。

ケアプランセンター はまゆう

年度目標

1 人材育成の強化による質の高いサービス提供

- (1) 特定事業所として、定期的な勉強会や他の居宅事業所との共同事例検討会を行い、知識、社会資源等の情報共有を行うことで事業所全体のケアマネジメントの質の向上を図る。
- (2) 専門性の高いケアマネジメントを実現するために、個人のスキルに応じた内部、外部研修の参加を促進し、研修を通じて専門知識を習得することでスキルアップを目指す。
- (3) 主任ケアマネジャーを中心に OJT を行うことで新人職員・中堅職員のキャリアアップや質の向上を目指す。

2 働きやすい職場環境の整備と危機管理体制の強化

- (1) 職場環境の改善、業務の効率化等の検討を定期的に行い、WEB 会議導入に向けた課題の抽出や、業務の省力化に向けた取り組みを推進する。
- (2) 事業継続計画（自然災害対策）の実践、具体的な運用ができるように、定期的なマニュアルの見直しや、各種災害に対応した実践的訓練、InCircle を活用した連絡体制訓練の定期的な実施、職員教育による意識向上を目指す。

3 マネジメント能力の向上と経営基盤の安定化

- (1) 事業所の運営状況の把握と状況分析を行い、安定した事業所運営を目指す。
- (2) 各職員が請求業務に携わり、収支状況の把握をすることで経営状況に対する高い意識を持つ。

グループホーム せんだんの里

年度目標

1 人材育成の強化による質の高いサービス提供

- (1) 認知症に対する専門職としてのスキル向上を目指す。
- (2) 職員個々の経験年数に合わせて計画的に受講できるように、年間研修計画を立てる。
- (3) 外国人職員の介護力の向上を目指し、日本語学習機会の確保、研修や実践からの日本語理解を進め、利用者へ適切な援助ができるよう支援する。

2 働きやすい職場環境の整備と危機管理体制の強化

- (1) 安定した有給休暇の取得を推進し、心身共に元気に働ける環境づくりに努め職員の定着を目指す。
- (2) 3S（整理、整頓、清掃）を推進し職場環境を保ち、気持ちよく働くことができるよう職場環境の整備，維持努める。
- (3) BCP に基づいた訓練を実施し、安心、安全に職場を守る。
 - ① 災害時に慌てず落ち着いて行動ができるように、定期的に防災訓練を実施する。
 - ② インサークルによる連絡訓練を実施し、災害時に迅速に連絡、連携がとれる体制を構築する。

3 マネジメント能力の向上と経営基盤の安定化

- (1) 実践者研修や管理者研修など、事業所の運営に関する資格取得に向けて、事業所内での次期管理者候補の育成を行う。
- (2) 職員個々に事業所内の担当業務、内部研修講師等の役割を任せ、経営等に関する意識向上、指導力等の向上に繋げる。
- (3) マネジメントに必要な知識、技術を習得するため、経理や労務管理に関する講習に参加する。
- (4) 事業所の収支状況を適切に把握し、コスト意識を持って日々の事業運営に取り組む。

グループホームきんもくせいの里

年度目標

- 1 人材育成の強化による質の高いサービス提供
 - (1) 介護福祉士の育成を中心に、実践者研修、管理者研修に参加できる機会を設け、知識・技能の向上を目指す。
 - (2) 新人職員や外国人職員の育成を担い、利用者一人ひとりのニーズに沿った良質な介護サービスの提供ができるようにする。
 - (3) 勉強会や研修参加などを通じて、外国人介護職員の日本語能力と介護実践力の向上を図る。
- 2 働きやすい職場環境の整備と危機管理体制の強化
 - (1) 毎月、備品等の整理整頓、設備点検を行い、職場環境の改善、業務効率化を推進し生産性向上を図る。
 - (2) 職員の定期的な面談を実施し、個人の状況に応じた各種休暇制度の活用、年間5日の有給休暇の取得ができるよう調整する。
 - (3) 各種防災訓練の実施、防災研修の参加を通して、日頃から危機管理体制の構築および職員の意識向上を図る。
- 3 マネジメント能力の向上と経営基盤の安定化
 - (1) 認知症介護実践者研修やリーダー研修等、事業運営に必要な資格取得に向けた研修参加を計画し、次世代の管理者育成に努める。
 - (2) 経営基盤の安定化へ向け広報活動を活性化し、待機者確保、稼働率99%以上の維持を目指す。
 - (3) 利用者の健康管理、骨折事故防止に努め、空床の原因を減らす。

グループホームゆうりこう

年度目標

- 1 人材育成の強化による質の高いサービス提供
 - (1) 認知症ケアに関する知識や技術を習得し、実践力を向上させる。
 - ① 事業所内外の研修や、認知症ケア会議へ参加し、レポートの作成により、内容の振り返りや習得状況の把握を行う。
 - ② 介護現場での OJT や定期的な能力評価を行い、個々の職員に応じた具体的な目標設定を行う。
 - (2) 外国人人材の育成を推進し、実務者研修、日本語検定等の受講を推進する。
- 2 働きやすい職場環境の整備と危機管理体制の強化
 - (1) 効率的に業務を行い、生産性を向上させる。
 - ① 職場環境においては、物品の使用状況や配置場所を適宜確認し、効率的に使用ができる体制を確保する。
 - ② 計画的な有給休暇の取得、効率的かつ負担軽減につながる業務の見直し及び勤務調整を行う。
 - (2) 危機管理意識及び能力の向上。
 - ① 非常災害時に備えた訓練の実施および実施後の内容の見直しにて、緊急時の適切な対応が行えるように、日々の危機意識の向上を図る。
 - ② 地域の関係機関と、運営推進会議等の機会を活用し、情報共有や実際災害が発生した際の行動等、すり合わせを行う。
- 3 マネジメント能力の向上と経営基盤の安定化
 - (1) 稼働率の維持、向上を目指し、収入の安定化に繋げる。
 - ① 定期受診、広報活動、地域会議への参加によって、関係機関との交流の機会を増やし、連携を密にとる。
 - ② 自事業所への申し込み状況等は法人内で情報共有し、入居希望者の状況に応じた早期の対応を行い、在籍率 99%以上を目指す。
 - (2) 実践者研修・、理者研修等の事業所に必要な 資格取得に向けての研修や、勉強会への参加調整を行う。

グループホームふなの里

年度目標

1 人材育成の強化による質の高いサービス提供

- (1) 認知症ケアに関する知識や技術を習得し、実践力を向上させる。
 - ① 毎月の内外部研修参加や自己学習への取り組みに工夫を持たせる。
 - ② 職員個々の能力に応じ、現場での OJT や OFFJT を行う。
 - ③ 定期的なミーティングでフィードバックを行う機会を設ける。
- (2) 介護福祉士及び介護支援専門員 1 名以上の合格を目指す。

2 働きやすい職場環境の整備と危機管理体制の強化

- (1) 業務改善による効率化を図り、働きやすい職場作りを目指す。
 - ① 職員間の情報共有とジャストコミュニケーションを図る。
 - ② ICT の活用を促進する。
 - ③ 職員個々の能力に応じた人員配置を行う。
- (2) 非常災害時に備えた実質的な訓練および実施後の見直しを行い、日頃から災害時でも柔軟に行動できる体制を構築する。

3 マネジメント能力の向上と経営基盤の安定化

- (1) 在籍率 99% 以上を維持し、安定した事業運営を目指す。
 - ① ひやりはっとや福祉用具の活用、環境整備など事故予防に重点を置き、重大事故ゼロを目標に取り組む。
 - ② 主治医、訪問看護や専門職との連携により入居者の体調管理を行う。
 - ③ 広報活動によりスムーズな入居調整に努め、南国市における社会資源として機能させる。

老人保健施設 しお風

年度目標

1 人材育成の強化による質の高いサービス提供

(1) 継続的なアセスメントに基づく、根拠あるサービスの提供

- ① 多職種による継続的なアセスメントに基づき、利用者の情報共有や統一したケアを実施することで、質の高いサービス提供に繋げる。
- ② 骨密度測定（年2回）や OHAT（年2回）、定期的な皮膚チェックや LIFE などのデータを活用することで、4大目標の達成に向けた取り組みを進め、サービスの質向上に努める。

(2) 認知症ケアや看取りケアの質向上

- ① 職員がそれぞれ、年2回以上の内外研修に参加し、OJT や伝達講習を通じて知識や技術を習得する。

2 働きやすい職場環境の整備と危機管理体制の強化

(1) 職場環境の改善を図り、働きやすい環境を提供

- ① 生産性向上委員会を通じて業務内容の見直し、改善、効率化に取り組み、人員調整や超過勤務の削減を図ることで、外国人人材を含むすべての職員が働きやすい環境を提供する。
- ② 年間計画を作成し、各職員が年間で有休5日を計画的に取得できる環境を整備する。

(2) 緊急時に備え、危機管理体制の強化

- ① 職員会や訓練を通じて、全職員に BCP を周知し、緊急時に迅速で的確な対応が取れるようにする。訓練後は新たな課題を検討し、必要に応じて見直しや修正を行う。
- ② 計画的な呼集訓練など、InCircle を活用して職員間の連絡体制を整備し、職員の危機管理能力の向上、強化を図る。

3 マネジメント能力の向上と経営基盤の安定化

(1) 事業所運営状況の把握と後進の育成

- ① 地域行事への参加や計画的な広報活動を充実させることで、毎月の稼働率97%を維持するとともに、超強化型老健として在宅復帰や在宅療養支援に特化した質の高いサービスの提供に努める。
- ② 調整会において、収益や運営状況を共有し、課題や分析を行うことで中間管理職の経営意識向上と、後進の育成に努める。

老人保健施設しお風 通所リハビリテーション

年度目標

1 人材育成の強化による質の高いサービス提供

- (1) 質の高いリハビリテーションと介護ケアを提供する。
 - ① 年2回以上は内部・外部研修へ参加し伝達講習を行う。
 - ② 朝礼やデイケア会で利用者の情報共有を行いケアの統一を図る。
- (2) 認知症ケアの知識・技術向上を図る。
 - ① 認知症リーダー研修に参加し、定期的な勉強会を開催することで認知症ケアの知識や技術、対応力の向上を図る。

2 働きやすい職場環境の整備と危機管理体制の強化

- (1) 安心して働ける職場環境を作る。
 - ① 年5日以上の有給休暇の取得や、育児休業等の推進を行い、福利厚生の実を充実を図る。
 - ② 業務を見直し、サービスの質や業務の効率化を図ることで、職場環境の改善や生産性向上を図る。
- (2) 職員の危機管理能力の向上や危機管理体制の構築
 - ① 計画的な防災訓練を通じて、職員の危機管理能力の向上や、定期的なBCPの見直しを行うことで危機管理体制の強化を図る。

3 職員の育成と経営基盤の安定化

- (1) 自己学習に励み事業所の安定した運営を行う
 - ① 年間計画を作成し、中間管理職・リーダーに向けた内部・外部への研修に参加する。
 - ② 稼働率や収支について毎月のデイケア会で報告し、分析や改善を話し合うことで職員の経営意識を向上させる。

訪問看護ステーション あおぞら

年度目標

- 1 人材育成の強化による質の高いサービス提供
 - (1) 個々の経験やスキルに応じた研修への積極的な参加を促進し、専門性を向上させる。
 - (2) 資格取得（衛生管理者資格、医療的ケア資格）に取り組み、個々のスキルアップを図る。
- 2 働きやすい職場環境の整備と危機管理体制の強化
 - (1) 職場環境の改善と業務効率化の検討
 - ① 計画的に有給休暇を取得できるよう、業務の見直しや効率化を進める。
 - ② 職員一人ひとりとの定期的な面談を通じて、職員のモチベーション管理に努める。
 - (2) 事業継続計画（自然災害対策）の実践と具体的な運用
 - ① 実践的な訓練や連絡体制訓練に年1回以上参加し、職員の防災意識を高める。
 - ② 緊急連絡網の整備および備品の点検を年2回実施する。
3. マネジメント能力の向上と経営基盤の安定化
 - (1) 教育部主催の主任、リーダー向け研修に積極的に参加し、労務管理や事業運営に関する知識を習得する。
 - (2) 収支状況を毎月の運営会議で報告し、変動の根拠を正確に把握して安定した運営に努める。

訪問看護ステーション キセキレイ

年度目標

1 人材育成の強化による質の高いサービス提供

(1) 研修参加および資格取得によるスキルアップ支援

- ① 各種資格取得に向け、医療的ケア、教員講習会等に積極的に参加する。
- ② 研修参加を奨励し、職員個々のスキル向上、専門性を高めるため1回/年以上の外部研修に参加を目指す。

(2) 認知症に関する知識や技術の向上

- ① 事業所内で認知症ケアの勉強会を1回/月開催し、知識を深め実践的なコミュニケーション技術、対応力の向上を図る。
- ② 事業所内で認知症ケアの検討会議を定期的で開催し、課題、問題点を抽出し、日々のケアへのフィードバックを図る

2 働きやすい職場環境の整備と危機管理体制の強化

(1) 事業継続計画（自然災害対策）の実践、具体的な運用

- ① BCP 運用を想定したマニュアル等の見直しを1回/年行い、対策に問題がないか確認し、内容をより実効性の高いものへと改善していく。
- ② BCP 机上訓練では計画に基づいた行動シミュレーションを行うことで緊急時に実践できる状態を目指す。
- ③ InCircle を活用した連絡体制訓練を、法人全体と事業所内で1回/月実施し、防災意識を高める。

3 マネジメント能力の向上と経営基盤の安定化

(1) 事業所の運営状況の把握と状況分析の実施

- ① 毎月の収支状況、その増減の要因を的確に把握し、1回/月の運営会議で報告する。
- ② 訪問看護サービスを必要とする利用者に対し、円滑にサービス提供が可能となるよう、日々の多職種連携を強化するなかで、利用者の身体状況を適切に評価、検討し、新規利用者獲得を目指していく。

総合福祉ゾーン

オークの里

- ・総合福祉ゾーンオークの里 ……P37
- ・障害者支援施設のぞみの家 ……P38
- ・デイサービスセンター 丹心苑 ……P39
- ・ケアハウス まごの手 ……P40
- ・グループホーム なごみの里 ……P41
- ・特定相談支援事業所 のぞみ ……P42
- ・共同生活援助オレンジハウス ……P43
- ・維新工房きらり ……P44

総合福祉ゾーン オークの里

基本方針

総合福祉ゾーンオークの里では、4大目標達成に向けた取り組みを推進し、介護のプロフェッショナル人材の育成とデータに基づいた質の高いサービス提供に取り組み、利用者が安心・安全で健康的な生活が送れるよう努めます。

事業運営については、職員の経営意識向上を図り、各事業所の運営目標を明確にしたうえで、着実且つ安定した事業運営を行います。

危機管理対策については、南海トラフ地震に備えるため、香南会自然災害対応基本方針に基づき、実践的な訓練を行うほか、地域や関係機関と連携し、防災体制の強化を図ります。

年度目標

- 1 4大目標達成、介護のプロフェッショナルな人材育成、データを基にした質の高いサービス提供にに取り組む。
- 2 運営目標の明確化と着実かつ適正な事業運営を行う。
- 3 防災体制の強化を図る。

障害者支援施設 のぞみの家

年度目標

- 1 4大目標の達成、介護のプロフェッショナルな人材育成、データを基にした質の高いサービス提供への取り組み
 - (1) 各専門職が連携し、質の高いサービス提供と4大目標達成を目指す。
 - ① 専門性を活かしながら連携を図り、適切なアセスメントとカンファレンスの基、利用者の障害特性に応じた質の高いサービスを提供する。
 - ② ノーリフティングケア推進に努め、適切かつ具体的な介助方法についてその都度検討し、安全かつ質の高いケアを提供する。
 - ③ リスクマネジメントの意識を持って事故防止に取り組み、骨折0、皮下出血0を目指す。
 - ④ 口腔ケア推進士を中心に、口腔内アセスメントを基に適切な口腔ケアを実施して誤嚥性肺炎0を目指す。
 - (2) プロフェッショナルな人材の育成と資質向上を目指す。
 - ① 施設内外の研修に積極的に参加し、知識や技術の向上に努め、高品質なケアを提供する人材を育成する。
 - ② 外国人介護職員に対し、適切な支援・指導を行って、日本語能力と介護技術の向上を図り、より専門的なケアが行える人材を育成する。
- 2 運営目標の明確化と着実かつ適正な事業運営
 - (1) 安定かつ適切な事業運営を目指す。
 - ① 稼働率目標を入所95%、短期入所45%とする。各専門職が連携し、稼働率の安定と向上に努める。
 - ② 利用者の健康管理を徹底し、入所生活の安定化に努める。
 - ③ 情報収集及び関係機関との情報共有を図り、スムーズな入所調整に努める。
 - (2) 経営意識の向上を図る。
 - ① 毎月の運営会議で収支状況を共有するとともに、財務諸表を理解し、収益性や生産性の分析を行って、経営意識の向上に努める。
- 3 防災体制の強化
 - (1) 災害に対応した持続可能な運営体制を整備する。
 - ① BCP、非常災害マニュアル等の見直しを定期的に行うとともに、香南会自然災害対応基本方針を基に実践的な防災訓練を実施する。
 - ② 災害時における地域住民や行政機関との連携体制を強化する。
 - ③ 災害時における医療・福祉支援体制の構築に向け、研修を実施する。

デイサービスセンター 丹心苑

年度目標

- 1 4大目標達成、介護のプロフェッショナルな人材育成、データを基にした質の高いサービス提供への取り組み
 - (1) 専門性が高く、個別性のあるサービスを提供する。
 - ① 利用者個々のニーズや状態をきちんと把握したうえで、通所介護計画を作成するとともに、定期的な評価と計画の見直しによって適切なサービス提供に努める。
 - ② 制作などの個別活動を充実させ、小規模通所事業所ならではのきめ細やかな関わりと活動提供に努める。
 - (2) プロフェッショナルな人材を育成し、4大目標達成を目指す。
 - ① ヒヤリハット報告書を活用し、リスクの洗い出しを行って、リスクに応じた対策を講じることで重大事故の防止に努める。
 - ② 介護口腔ケア推進士の資格取得を目指し、誤嚥性肺炎予防の知識と技術を培う。
 - ③ 法人内外の認知症ケアの研修に参加するとともに、日本認知症ケア学会に入会し、認知症ケアの充実を図る。
- 2 運営目標の明確化と着実かつ適正な事業運営
 - (1) 稼働率目標を97%とし、安定した事業運営を目指す。
 - ① 各関係事業所と連携を図り、利用者の心身状態に応じたサービスの位置づけを提案する。
 - ② 運営会議で収支の状況を定期的に確認し、全体で共有するとともに、財務上の各指標に対する理解を深め、細かな分析を行うことで、適正な事業運営に繋げていく。
- 1 防災体制の強化。
 - (1) 非常事態に備え、最新のハザードマップの確認をはじめ、BCPやマニュアル等の整備、見直しを行う。
 - (2) 香南会自然災害対応基本方針に基づく実践的な訓練を実施する。
 - (3) 運営推進会議の開催や地区清掃へ参加することで、地域との関係性を深め、災害時の協力体制を構築する。

ケアハウス まごの手

年度目標

1 4大目標達成、介護のプロフェッショナルな人材育成、データを基にした質の高いサービス提供への取り組み

- (1) 関係事業所との連携強化と入居者個々に応じたケアの実践に取り組む。
 - ① 年2回以上 OHAT を実施して、その結果を基に、利用者に適した食事の提供と適切な口腔ケアを実践することにより、誤嚥性肺炎の予防に努める。
 - ② 入居者の生活環境、福祉用具、ケア方法等について多職種で協議し、入居者が安心・安全な生活を送れるよう努める。
 - ③ 年2回の骨密度測定結果を基に、骨折のリスクが高い入居者に対しては、ヒッププロテクター着用を推奨し、骨折予防に努める。
 - ④ 入居者の状態を日々把握するとともに情報共有を図り、入居者が必要な在宅サービスを継続的に利用できるよう努める。
- (2) 介護全般にわたる知識・技術の向上に努める。
 - ① 外部研修、内部研修へ積極的に参加するとともに、研修内容を共有し、知識・技術の向上に努める。

2 運営目標の明確化と着実かつ適正な事業運営

- (1) 入居稼働率 98%を目指す。
 - ① 入退居調整を迅速に行い、稼働率の安定化に努める。
 - ② 広報活動（月 40 件）を効率的に行い、待機者の確保に努める。
- (2) 財務管理に対する意識の向上を図る。
 - ① 運営会議で収支状況を確認するとともに、経費について細かく分析していくことで、財務管理の意識を高め、適正な事業運営に繋げる。

3 防災体制の強化

- (1) 災害時に迅速かつ適切な対応が行えるよう努める。
 - ① BCP やマニュアルの見直しを随時行うとともに、香南会自然災害対応基本方針を基にした実践的な訓練を実施する。
 - ② 地域の自主防災組織と連携し、合同訓練に積極的に参加する。

グループホームなごみの里

年度目標

1 4大目標達成、介護のプロフェッショナルな人材育成、データを基にした質の高いサービス提供への取り組み

- (1) 適切なアセスメントのもと質の高いケアの提供を目指す。
 - ① 多職種と連携しながら、利用者の認知症の症状や心身の状況に応じた計画を作成し、自立支援に努める。
 - ② 職員間で情報共有を密に行い、統一されたケアの提供に努める。
- (2) リスクマネジメントに取り組み、重大事故を防止する。
 - ① 利用者の運動機能やADLなどの情報をもとに、リスクの分析を行って、適切な事故防止策を講じることで重大事故の防止に努める。
 - ② 月10件以上のヒヤリハット報告を目標とし、日々の気付きを増やし、リスクを予測していくことで事故を未然に防いでいく。
- (3) 専門職としてスキルアップを目指す。
 - ① 認知症ケアに必要な勉強会や研修に参加するとともに、日本認知症ケア学会に入会し、認知症ケアの充実に努める。
 - ② 介護口腔ケア推進士、認知症ケア専門士、介護支援専門員等の資格取得に努める。

2 運営目標の明確化と着実かつ適正な事業運営。

- (1) 収支状況を把握し、在籍率の安定化を図る。
 - ① 入居者の食事摂取量や水分量等の情報をもとに、状態変化を早期に発見していくことで重症化を防ぎ、健康維持に努める。
 - ② 広報活動の目標件数を月15件とし、待機者を確保することで、在籍率99%以上を維持する。

3 防災体制の強化。

- (1) 災害時に適切且つ迅速に行動できるよう防災意識の向上を図る。
 - ① BCPや防災関係マニュアルを適宜見直し、香南会自然災害対応基本方針をもとに、実践的な訓練を計画的に実施する。
 - ② 地域の防災訓練や自主防災活動等へ参加し、地域住民と連携していくことで、災害時の支援体制の強化に努める。

特定相談支援事業所 のぞみ

年度目標

- 1 4大目標達成、介護のプロフェッショナルな人材育成、データを基にした質の高いサービス提供への取り組み
 - (1) 利用者や家族の意向に添える様に地域の社会資源を把握する。
 - (2) 利用者の意思決定支援を行い、臨機応変なサービス調整を行う。
 - (3) 書類整理・整頓や行政提出物など、迅速かつ確実な業務を行う。
 - (4) 個別生活支援と地域連携を両輪とした相談支援が行える人材を育成する。
- 2 運営目標の明確化と着実かつ適正な事業運営
 - (1) 行政機関の会議や研修、地域での取り組みに参加し、最新情報を得る。
 - (2) 毎月の運営会議で収支把握と分析を行い、経営意識を高める。
- 3 防災体制の強化
 - (1) 非常災害時に関係機関と連携し、利用者の安否確認に努める。
 - (2) 香南会自然災害対応基本方針をもとに実践的な訓練を行う。

共同生活援助 オレンジハウス

年度目標

- 1 4大目標達成、介護のプロフェッショナルな人材育成、データを基にした質の高いサービス提供への取り組み
 - (1) 専門的援助者として、支援技術の向上・実践能力向上に努める。
 - ① 研修計画を作成し、知識習得における研修会に年4回以上参加する。
 - ② 虐待防止・権利擁護を推進し、利用者の人権擁護や個人の尊厳、プライバシーに配慮した対応と、意思決定支援を重視したサービスに努める。
 - ③ 利用者の意向や心身状況等のアセスメントから、生活全般の質の向上に係る課題や目標を明確にし、支援方針を反映した支援計画を作成する。
 - ④ 利用者の身体及び精神の状況と、置かれた環境等を照合し、適切な支援ができる人材を育成する。
- 2 運営目標の明確化と着実かつ適正な事業運営
 - (1) 目標稼働率を90%以上とし、安定した事業運営を行う。
 - ① 日中活動事業所と連携し、利用者の就労が定着するよう対人関係の調整と相談を行い、利用者個々の障害特性の理解に努める。
 - ③ 入居の定着に努めるとともに、幅広い広報活動を行い、待機者を確保する。
 - (2) 運営状況を把握し、無駄のない業務を行う。
 - ① 生活支援ならびに日常業務の振り返りを行い、無駄の削減に努める。
 - ② 毎月の運営会議で収支の確認と分析を行い、経営意識を高め、安定した運営に努める。
- 3 防災体制の強化
 - (1) 利用者、職員の安全を最優先した防災対策に取り組む。
 - ① 最新のハザードマップの確認のほか、BCPやマニュアル等の見直しを適宜行う。
 - ② 香南会自然災害対応基本方針をもとに、実践的な訓練を年5回行う。
 - ③ 地域訓練に参加するなど、近隣住民や関係機関と繋がりを持ち、関係性を強化する。

維新工房きらり

年度目標

- 1 4大目標達成、プロフェッショナルな人材育成、データを基にした質の高いサービス提供への取り組み
 - (1) 利用者の適性及び障害特性を踏まえ、ニーズに応じた支援を行う。
 - ① 多職種と連携して研修等を行い、利用者の就労に必要な知識及び技術を身に着け利用者に伝達することで、利用者の就労を支援する。
 - ② 日々のケース記録をもとに、利用者の目標達成に向けた支援方法について個別支援検討会で検討し、専門性の高い支援に努める。
 - (2) 職員のスキルアップ、人材育成に努める。
 - ① 研修を計画的に行ってスキルアップを図り、利用者の包括的なサポートが行える人材を育成する。
- 2 運営目標の明確化と着実かつ適正な事業運営
 - (1) 利用者確保と支援体制の充実に努め、安定した事業運営を目指す。
 - ① 相談支援事業所や特別支援学校、職業訓練校等と連携し、見学や実習生を受け入れるとともに、実習生が安心して作業に取り組めるよう支援環境を整備する。
 - ② 利用者が充分に能力を発揮できるよう、いつでも相談できる体制を整え、細やかな要求に応えることで、個々の利用率90%以上を目指す。
 - (2) 財務管理の意識を高め、適正な事業運営を目指す。
 - ① 適正な経費区分を行って、事業活動における収支のバランスを管理する。
 - ② 生産活動における年度予算を作成し、予算管理を適正に行うことで、利用者への安定的な賃金の支給に努める。
- 3 防災体制の強化
 - (1) 持続可能な事業運営を目指し、防災体制の強化を図る。
 - ① ハザードマップやBCP、マニュアル等を確認するとともに、香南会自然災害対応基本方針を基に実践的な訓練を行う。
 - ② 積極的に地域との連携を図り、災害時における協力体制を確保する。

総合福祉ゾーン

キセキレイの里

- ・総合福祉ゾーンキセキレイの里 ……P46
- ・養護老人ホーム清香園 ……P47
- ・デイサービスセンターアザレア ……P48
- ・デイサービスセンターりんどう ……P49
- ・認知症デイサービスセンターいおき ……P50
- ・ケアハウスせいらん ……P51
- ・グループホームあい ……P52
- ・グループホームびわの里 ……P53
- ・グループホームくすのきの里 ……P54

総合福祉ゾーン キセキレイの里

基本方針

2025 年 4 月に新たに開設する地域密着型通所介護事業所を含めたすべての事業所が、支援を必要とする方々が住み慣れた場所で地域とのつながりを大切に安心して暮らすことができるように努めます。更に適正な事業運営に取り組み、利用者、家族、地域の方々のニーズに応える福祉施設を目指していきます。

また、実践的な防災訓練を実施し、危機管理体制を継続的に見直し自然災害対策の強化に取り組めます。

年度目標

- 1 4 大目標の推進と職員の介護実践力の向上を図り、質の高いサービスの提供を目指す。
- 2 運営目標の明確化と進捗管理を行うとともに、地域との連携により安定した事業運営に繋げる。
- 3 実践的な防災訓練の実施と危機管理体制の見直しにより自然災害対策を強化する。

養護老人ホーム 清香園

年度目標

- 1 4大目標の推進と職員の介護実践力の向上を図り、質の高いサービスの提供を目指す。
 - (1) 職員のリスクマネジメント力の強化を図る。
 - ① 事故報告書、ヒヤリ・ハット報告書を精査することで発生リスクがある事故を予測し、早期に対策を講じることで重大事故を防止する。
 - ② 運営懇談会、サービス運営委員会、個別対応などを活用し、利用者の言動や訴えを傾聴し、状況を正確に捉え、適切に対処する。
 - (2) 職員一人一人（外国人を含む）が必要な研修への参加に努める。
 - ① 計画的に研修へ参加することにより、職員個々のスキルアップを図る。
 - (3) 口腔衛生管理を徹底し、誤嚥性肺炎の予防に努める。
 - ① 計画的に歯科検診を実施し、個々に応じた適切な食事形態の見直しや口腔ケアを実践することで利用者の口腔内衛生保持に努める。
- 2 運営目標の明確化と進捗管理を行うとともに、地域との連携により安定した事業運営に繋げる。
 - (1) 運営目標を定め、職員の経営意識を向上させる。
 - ① 入所稼働率 96%を目標に、関係機関への広報活動を計画的に展開し、施設での取組み・空床情報を発信すると共に地域のニーズを把握する。
 - ② 行政機関と連携し、待機者情報を共有することで迅速な入所に繋げる。
 - ③ 毎月の運営会議にて、収支状況を的確に把握し対策を講じる。
- 3 実践的な防災訓練の実施と危機管理体制の見直しにより自然災害対策を強化する。
 - (1) 災害時の事業継続を念頭に置き、防災意識の向上を図る。
 - ① 福祉避難所開設訓練や地域の防災訓練に参加し、地域との連携や施設が担うべき役割について職員へ周知する。
 - ② 非常災害を見据えた具体的且つ実践的な訓練を計画的に実施し、改善点について精査し、防災マニュアル・BCPの見直しを図る。
 - (2) 感染症対策を推進し、感染症予防対策を徹底する。
 - ① 感染症 BCP に沿った訓練及び研修を年 2 回以上実施し、感染症発生時の対応や感染予防策について職員へ周知する。

デイサービスセンター アザレア

年度目標

- 1 4大目標の推進と職員の介護実践力の向上を図り、質の高いサービスの提供を目指す。
 - (1) 重大事故防止に取り組む。
 - ① ヒヤリ・ハット報告書を周知徹底することで危険予測、早期に対策を実施し事故予防に努める。
 - ② 事故内容を関係事業所と共有する事で再発防止に努める。
 - ③ 職員会等でリスクの把握と共有により統一したケアの実施に繋げる。
 - (2) 職員の知識、技術、意欲向上に努める。
 - ① 計画的に研修へ参加する。
 - ② 定期的に職員面談を実施し、コミュニケーションを図り、関係性を築くことで仕事に対する意欲向上に努める。
 - (3) 利用者が役割を持ち、達成感や満足感を得られるように努める。
 - ① 利用者個々に応じた個別活動を実施する。
- 2 運営目標の明確化と進捗管理を行うとともに、地域との連携により安定した事業運営に繋げる。
 - (1) 稼働率 98%以上の安定した事業運営に取り組む。
 - ① 利用者のニーズを把握し、地域密着型通所介護の強みを生かした個性に沿ったサービス提供する。
 - (2) 地域に根差した事業所作り
 - ① 毎月、市役所で利用者の作品を展示してもらうことで、新しく開設した地域密着型事業所の活動を発信する。
 - ② 運営推進会議で地域の状況の把握と地域密着型事業所の役割を発信し、地域のニーズを拾い上げる。
- 3 実践的な防災訓練の実施と危機管理体制の見直しにより自然災害対策を強化する。
 - (1) 予想される自然災害に備える。
 - ① 地域の防災訓練に参加し、地域における災害時の役割を理解する。
 - ② 災害等を想定した防災訓練に計画的に実施する
 - ③ 定期的に BCP やマニュアルの見直しをする。

デイサービスセンター りんどう

年度目標

- 1 4大目標の推進と職員の介護実践力の向上を図り、質の高いサービスの提供を目指す。
 - (1) 重大事故防止に取り組む。
 - ① ヒヤリ・ハット報告書を活用し、危険予測、予防対策を周知し事故発生予防に努める。
 - ② 事故内容を検証し関係事業所と共有する事で再発防止に努める。
 - ③ 職員会等でリスクの把握と共有により統一したケアの実施に繋げる。
 - (2) 職員の知識、技術、意欲向上に努める。
 - ① 計画的に研修へ参加する。
 - ② 日々のコミュニケーションや定期的に職員面談を実施することで仕事に対する意欲向上に努める。
- 2 運営目標の明確化と進捗管理を行うとともに、地域との連携により安定した事業運営に繋げる。
 - (1) 稼働率98%以上の安定した事業運営に取り組む。
 - ① 個別的ケアが必要な利用者が安心して利用できる事業所作り
 - ア 少人数でなじみの関係を作り、社会交流の場となる。
 - イ 心身状態、嗜好に応じた個別活動を提供する。
 - ウ 事業所内での役割作りで達成感や満足感を持つことで、日々の生活も穏やかに過ごせる。
 - (2) 地域に根差した事業所作り
 - ① 市役所等で利用者の作品を展示する機会を持ち、地域の介護サービス事業所として認識してもらう。
 - ② 運営推進会議で地域の状況の把握と地域密着型事業所の役割を発信し、地域のニーズを拾い上げる。
- 3 実践的な防災訓練の実施と危機管理体制の見直しにより自然災害対策を強化する。
 - (1) 予想される自然災害に備える。
 - ① 地域の防災訓練に参加し、事業所の役割を理解する。
 - ② 災害ごとの被害を想定した防災訓練を計画的に実施する。

認知症デイサービスセンターいおき

年度目標

- 1 4大目標の推進と職員の介護実践力の向上を図り、質の高いサービスの提供を目指す。
 - (1) リスクマネジメント力の向上に努め事故を防ぐ。
 - ① 事故防止研修に参加し、知識や技術の向上に努める。
 - ② 利用者の行動の把握、多職種との情報共有を行い事故防止に繋げる。
 - (2) 認知症ケアの専門性を高める。
 - ① 法人内外の研修を通して知識や技術を習得し、実践する。
- 2 運営目標の明確化と進捗管理を行うとともに、地域との連携により安定した事業運営に繋げる。
 - (1) 稼働率95%以上の安定した事業運営に努める。
 - ① 毎月の調整会にて利用者に関わる事業所との情報交換、情報共有を行い、利用者の心身状態に応じたサービス提供を行う。
 - (2) 働きやすい職場環境の整備を行う。
 - ① 適宜面談やコミュニケーションを図り、互いに対する理解を深め、協力・助け合いの意識を持ち職員間の連携に努める。
 - ② 計画的に有給休暇を取得する。
- 3 実践的な防災訓練の実施と危機管理体制の見直しにより自然災害対策を強化する。
 - (1) 行政及び地域との連携体制の確立に努め、防災危機管理対策の充実を図る。
 - ① 地域の防災訓練等に参加し、地域との交流を図る。
 - ② 自然災害時に対応できるよう、自然災害BCPに添った訓練を行い、定期的に内容を見直す。
 - ③ 感染症蔓延が防げるよう感染症BCPの周知とともに全職員が感染症研修に参加し、知識や技術の向上に努める。

ケアハウス せいらん

年度目標

- 1 4大目標の推進と職員の介護実践力の向上を図り、質の高いサービスの提供を目指す。
 - (1) 入居者個々に応じたサービスを提供する。
 - ① 多職種と情報共有し、入居者の状態把握と個別ケアに繋げる。
 - ア 月1回以上のカンファレンス・担当者会を行う。
 - イ 入居者の体調管理を行い、異常の早期発見・早期対応に努める。
 - (2) ノーリフティングケアを推進する。
 - ① 年1回以上はノーリフティングケア研修に参加する。
 - ② 入居者に必要な福祉用具を検討する。
 - (3) 研修参加（事故防止、認知症ケア、口腔ケア）や介護福祉士資格取得を推進する。
- 2 運営目標の明確化と進捗管理を行うとともに、地域との連携により安定した事業運営に繋げる。
 - (1) 目標稼働率99%を目指す。
 - ① 医療・行政機関、居宅介護支援事業所等を中心に月60件以上の広報活動を継続する。
 - ② 待機者を常時2名以上確保する。
 - ③ 広報活動で法人の取組や施設について説明すると共に、地域のニーズを把握する。
 - (2) 働きやすい職場環境づくり
 - ① 計画的に有給休暇を取得する。
- 3 実践的な防災訓練の実施と危機管理体制の見直しにより自然災害対策を強化する。
 - (1) 地域及び行政との連携体制を確立する。
 - ① 年1回以上、地域・行政主催の防災訓練に参加する。
 - (2) 事業所の立地条件を踏まえた、風水害等の災害対応訓練を行う。

グループホームあい

年度目標

- 1 4大目標の推進と職員の介護実践力の向上を図り、質の高いサービスの提供を目指す。
 - (1) 多職種連携による個人にあったサービスを提供する。
 - ① リスクマネジメント体制の充実を図り、事故予防に努める。
 - ② 理学療法士、栄養士等と連携した取り組みをケアプランに反映し、専門性の高いケアを提供する。
 - (2) 研修や資格取得の機会を増やし、職員（外国人職員含む）の技術・知識、意欲の向上に繋げる。
 - ① OJT指導を通して、外国人職員のスキルアップを図る。
- 2 運営目標の明確化と進捗管理を行うとともに、地域との連携により安定した事業運営に繋げる。
 - (1) 平均稼働率98%以上を目標にし、安定した運営を行う。
 - ① 常時4名以上の待機者確保に努める。
 - ② 広報活動を月20件以上行い、地域のニーズの把握に努める。
 - (2) 職場環境を整備し、働きやすい職場環境づくりを行う。
 - ① 経費節減を徹底し、職員の経営意識向上を促進する。
 - ② 4S活動を推進し適切な書類管理及び業務の効率化を図る。
- 3 実践的な防災訓練の実施と危機管理体制の見直しにより自然災害対策を強化する。
 - (1) 事業所の立地条件を踏まえた災害等を想定した実践的な訓練を実施し、災害時の対応能力向上を目指す。
 - (2) マニュアルの見直し、備品整備を通じて防災危機管理対策の充実に努める。

グループホームびわの里

年度目標

- 1 4大目標の推進と職員の介護実践力の向上を図り、質の高いサービスの提供を目指す。
 - (1) 職員個々のスキルアップを図り、サービスの質の向上に努める。
 - ① ヒヤリ・ハット報告書を月20件以上あげ、事前に予防対策をとる事で重大事故を防ぐ。
 - ② 口腔ケア・感染症対策・認知症ケア・ノーリフティングケアの内部・外部の研修へ参加し知識・技術向上を図り資格取得に繋げる。
- 2 運営目標の明確化と進捗管理を行うとともに、地域との連携により安定した事業運営に繋げる。
 - (1) 平均稼働率98%以上を維持し、進捗管理を行う。
 - ① 広報活動を月20件以上行い、地域ニーズの把握と待機者を常時3名以上確保し、入退居をスムーズに行える体制を整える。
 - (2) 職員が心身とも健康で働ける環境、かつ個々の強みを最大現に発揮できる職場づくりを目指す。
 - ① 定期的な面談を行い、資格取得や必要な知識・技術を身につけるよう促す。
 - ② 計画的に有給休暇を取得し、心身の疲労回復・リフレッシュを図る。
 - ③ 安全な職場づくりのために、4S活動を取り入れる。
- 3 実践的な防災訓練の実施と危機管理体制の見直しにより自然災害対策を強化する。
 - (1) 事業所の立地条件など特徴を理解し、災害等を想定した訓練を計画的に実施する。
 - (2) BCP・非常時災害マニュアル・感染症マニュアルを定期的に見直し周知徹底する。
 - (3) 地域住民との関わりを構築するために、地域行事へ参加し地域住民との交流を積極的に図る。

グループホームくすのきの里

年度目標

- 1 4大目標の推進と職員の介護実践力の向上を図り、質の高いサービスの提供を目指す。
 - (1) 多職種と連携しアセスメントを行い、利用者個々に応じたケアを見極め実施する。
 - ① 定期的にカンファレンスを実施し、様々な視点からリスクマネジメントを行い、情報を共有することで重大事故を防止する。
 - ② 職員の口腔ケアに対する知識・技術の習得及び向上を目指し、1名以上口腔ケア推進士の資格を取得する。
 - ③ 利用者個々に応じたケアの為、ルールの周知徹底と業務改善を行う。
 - (2) 職員のアセスメント能力の向上を図る。
 - ① 月10件以上のヒヤリ・ハット報告書を提出しリスクの発見、早期対応に繋げる。
- 2 運営目標の明確化と進捗管理を行うとともに、地域との連携により安定した事業運営に繋げる。
 - (1) 毎月、稼働率98%以上を維持する。
 - ① 入居前面接等を順次行い、スムーズな入居調整を行う。
 - ② 広報活動により関係機関との連携、信頼関係の構築を図る。
 - (2) 利用者が地域と交流できる機会を確保する。
 - ① 地域行事への参加や故郷巡り（ドライブ）などを計画的に実施する。
- 3 実践的な防災訓練の実施と危機管理体制の見直しにより自然災害対策を強化する。
 - (1) 地域社会との繋がりを重視した取り組みを行う。
 - ① 地域住民参加型の総合避難訓練実施や地域の清掃活動等へ積極的に参加し、協力し合える関係性の構築を図る。
 - ② 地域との相互理解が深まるよう、運営推進会議を活用して防災等に関する事業所の現状やリスクを発信する。
 - (2) 自然災害に備えた取り組みの強化を図る。
 - ① ハザードマップに基づき、実践的な防災訓練を実施する。

総合福祉ゾーン

もとかの里

- ・ 総合福祉ゾーンもとかの里 ……P56
- ・ ユニット型特別養護老人ホーム
もとか ……P57
- ・ ケアプランセンターもとか ……P58
- ・ グループホーム ひのきの里 ……P59
- ・ 認知症デイサービスセンターひのきの里
……………P60
- ・ グループホーム やまざくらの里 ……P61
- ・ グループホーム あさぎり四万十の里 ……P62
- ・ グループホーム かづらしま ……P63
- ・ グループホーム ななつかたばみ ……P64
- ・ グループホーム ゆうき ……P65

総合福祉ゾーンもとちかの里

基本方針

総合福祉ゾーンもとちかの里は、地域の社会資源としての役割を認識し、多様なニーズに対応し安定した事業運営を目指します。また、利用者に質の高いケアが提供できるよう生産性の向上を図り、取り組んでいきます。

危機管理体制としては、自然災害に備え、災害時の対応や事業継続に向け実践的な訓練を実施し防災対策の構築を図ります。

年度目標

- 1 人材育成とチームケアの質の向上、情報共有の効率化を行い、サービスの質の向上を図る。
- 2 経営意識の向上を図り、安定した事業運営を目指す。
- 3 自然災害（地震・風水害・土砂災害）に備え事業所のある地域の実情に即した防災対策を構築する。

ユニット型特別養護老人ホームもとか

年度目標

- 1 人材育成とチームケアの質の向上、情報共有の効率化を行い、サービスの質の向上を図る。
 - (1) 4大目標の取り組みを推進し、介護のプロフェッショナルを育てる。
 - ① 口腔ケア推進士の資格取得やユニットリーダー研修へ参加し、専門性の向上に繋げる。
 - ② OJT と OFF-JT を組み合わせ、外国人職員の日本語能力や介護の専門知識・技術の向上を図る。
 - (2) チームケアによる質の高いサービス提供に努める。
 - ① 多職種と報告・連絡・相談を密に行い、異常の早期発見や対策を行い、統一したケアが実施できるようにする。
 - ② 入居者の状態把握を行い、リスクを予測し事故の防止策や損害軽減策を迅速に導入し事故防止に努める。
 - (3) 業務改善を推進し、生産性の向上に取り組む。
 - ① 業務の課題を把握、見直しを行う。(3ヶ月に1回)
 - ② 職場環境を整備する。
- 2 経営意識の向上を図り、安定した事業運営を目指す。
 - (1) 収支状況を把握し、安定した事業運営に取り組む。
 - ① 入居調整を円滑に行い、入所稼働率98%以上を目指す。
 - ② 困難事例や緊急事案を積極的に受け入れショートステイ利用に関する窓口を広くしショートステイ稼働率90%以上を目指す。
 - ③ 継続的に広報活動を行い新規利用者、待機者の確保に努める。
(月100件以上)
 - ④ 資金支出を確認し、経費節減に取り組む。(毎月)
- 3 自然災害(地震・風水害・土砂災害)に備え事業所のある地域の実情に即した防災対策を構築する。
 - (1) 事業継続計画(BCP)に沿った、訓練を実施する。(年2回)
 - ① 地震・津波・火災時を想定した実践的な訓練を実施し、関係事業所や地域との連携を強化する。
 - ② 定期的に防災備蓄品の見直しを行い、災害に備える。(年2回)

ケアプランセンターもとか

年度目標

- 1 人材育成とチームケアの質の向上、情報共有の効率化を行い、サービスの質の向上を図る。
 - (1) 職員個々の専門性、資質向上を目指し、研修等への参加を推進する。
(全職員参加)
 - (2) 居宅サービスにおけるチームケアの要として、多職種との情報共有を行い、情報を発信する。
 - (3) 利用者の安定した生活の継続を目指し、状態変化の時には環境の見直しやサービス調整を迅速に行う。
 - (4) 定期的に住環境の確認を行い、安全で安心した環境が整備できるよう取り組む。
- 2 経営意識の向上を図り、安定した事業運営を目指す。
 - (1) 利用者に必要なサービスが柔軟に提供できるよう調整を図る。
 - (2) 職員個々がサービス実績、利用状況を適切に把握し経営意識を高める。
 - (3) 業務マニュアル等を定期的に見直し業務の効率化を図る。(3ヶ月に1回)
- 3 自然災害(地震・風水害・土砂災害)に備え事業所のある地域の実情に即した防災対策を構築する。
 - (1) 災害発生時に職員が自立して行動できるよう訓練に参加する。
 - (2) 事業継続計画(BCP)に沿った、訓練に参加する。(年2回)
 - (3) 訪問先等で被災に備え、訪問先等の避難マニュアル等の理解を進める
 - (4) 定期的に防災教育、学習の場を持ち、職員個々の意識を高める。
(毎月実施)

グループホームひのきの里

年度目標

- 1 人材育成とチームケアの質の向上、情報共有の効率化を行い、サービスの質の向上を図る。
 - (1) 認知症ケアについて、知識を向上する。
 - ① 入居者の立場に立った考え方やケアを実践する。
 - ② 専門的な認知症ケアが提供できるよう、資格取得や研修に参加する。
(全職員研修参加)
 - (2) 入居者に関心をもち心身状態の把握を行う。
 - ① 心身状態を把握し、双方にとって負担のないケアを提供する。
 - ② 入居者との信頼関係を構築し、落ち着く環境を作る。
 - ③ 入居者の心身状態の変化に応じた対応を行い事故防止に努める。
 - (3) 業務改善を行い、生産性の向上を図る。
 - ① 職場環境を整備し、業務上のムリ・ムダ・ムラをなくす。
 - ② 業務の見直しを行い、効率化を図る。(3ヶ月に1回)
- 2 経営意識の向上を図り、安定した事業運営を目指す。
 - (1) 入居稼働率99%以上を目指し、安定した収入維持に努める。
 - ① 健康管理や事故防止を行い、入院や退居者数を減らす。
 - ② 常に待機者3名確保できるよう広報活動を行う。(月20件以上)
 - (2) 職員個々が節約を意識し経費削減に努める。
 - ① 在庫整理、環境整備を行い、見える化に努める。
 - ② 節水、節電に努める。
- 3 自然災害(地震・風水害・土砂災害)に備え事業所のある地域の実情に即した防災対策を構築する。
 - (1) 緊急時に備えた、緊急管理体制を強化する。
 - ① 事業継続計画(BCP)に基づいた訓練を実施することで防災・危機管理の知識の向上、対応力を培う。(年2回)
 - (2) 密な地域連携により支援活動の協力依頼できる関係性を作る。
 - ① 地域住民と利用者の交流を深める場の確保を行う。
 - ② 地域防災訓練への参加、事業所防災訓練への住民参加を実践する。

認知症デイサービスセンター ひのきの里

年度目標

- 1 人材育成とチームケアの質の向上、情報共有の効率化を行い、サービスの質の向上を図る。
 - (1) チームケアによる質の高いサービスを提供する。
 - ① 認知症ケアに特化したケアが提供できるよう研修に参加し知識、技術の向上に努める。(全職員参加)
 - ② 多職種と連携を図り、適切なサービスを提供する。
 - (2) リスクマネジメント管理を徹底する。
 - ① ヒヤリハット報告書の作成、分析を行い、リスク予測することで事故防止に繋げる。
 - ② 職員間や家族と連携を図り、天候や道路状況を把握し、安全な送迎を行う。
 - (3) 業務改善を推進し、生産性の向上に取り組む。
 - ① 業務を明確化し、ムリ・ムダ・ムラをなくす。(3ヶ月に1回見直し)
- 2 経営意識の向上を図り、安定した事業運営を目指す。
 - (1) 稼働率 75%以上を目指し、安定した事業運営を行う。
 - ① 馴染みの関係を活かした広報活動を行い、新規利用者を確保する。
 - ② 利用者、家族の生活状況の把握をし、必要に応じサービス利用の提案をし、利用者の定着に努める。
 - ③ 認知症家族の交流会の開催会場として提供し、利用に繋げていく。
 - (2) コスト削減に取り組む。
 - ① 職員個々がコスト意識を高め経費削減に取り組む。(月1回確認)
 - ② 備品や設備を大切に取り扱い、破損等を防ぐ。
- 3 自然災害(地震・風水害・土砂災害)に備え事業所のある地域の実情に即した防災対策を構築する。
 - (1) 事業継続計画(BCP)に基づいた訓練を実施する。(年2回)
 - ① 様々な緊急事態を想定した実践的な訓練を実施する。
 - ② 緊急事態に備え、家族等への連絡体制を整える。
 - (2) 地域との連携体制を確立する。
 - ① 地域や公的機関と連携し、災害に対応できる体制の構築に努める。

グループホームやまざくらの里

年度目標

- 1 人材育成とチームケアの質の向上、情報共有の効率化を行い、サービスの質の向上を図る。
 - (1) 4大目標の具体的な取り組みを明確にし、実践する。
 - ① 研修や勉強会へ参加し、専門的な認知症ケアが提供できるように取り組む。(全職員研修参加)
 - ② ヒヤリハットを基に迅速な事故対策を行い、事故防止に努める。
 - ③ 専門性の向上が図れるよう資格取得に取り組む。
 - (2) 業務の標準化を推進し、業務水準の底上げや生産性の向上に取り組む。
 - ① 業務内容に無駄がないように適宜業務の見直しをする。(3ヶ月に1回)
 - ② ノーリフトを推進し腰痛予防など働きやすい職場づくりを行う。
- 2 経営意識の向上を図り、安定した事業運営を目指す。
 - (1) 安定した収入を確保する。
 - ① 入居稼働率 99%以上を目指す。
 - ② 常に待機者 3 名確保できるよう広報活動を行う。(月 20 件以上)
 - (2) 無駄な支出の削減に努める。
 - ① 食品や物品の過剰在庫を持たないよう月に一回はチェックを行う。
 - ② 適切な室温管理のもと、無駄のない空調の使用を行う。
- 3 自然災害(地震・風水害・土砂災害)に備え事業所のある地域の実情に即した防災対策を構築する。
 - (1) 事業継続計画(BCP)に基づいた実践的な訓練に取り組む。(年 2 回)
 - ① ローリングストック方式にて備蓄食品や備品の管理を行う。
 - ② 適宜、計画の見直しの必要がないか職員間で確認する。
 - (2) 地域住民と連携した訓練の実現に取り組む。
 - ① 地域の避難訓練に積極的に参加する。
 - ② 事業所の避難訓練の際には、近隣住民に向けて参加の依頼を行う。

グループホームあさぎり四万十の里

年度目標

- 1 人材育成とチームケアの質の向上、情報共有の効率化を行い、サービスの質の向上を図る。
 - (1) 4大目標を理解し、取り組みを推進する。
 - ① 4大目標の取り組み方法を明確にし、職員間で意識を向上する。
 - ② ヒヤリハットの内容を検証し、事故防止に努める。
 - (2) 特定技能生を含む職員全員の介護実践力の向上を目指す。
 - ① 資格取得に向けたバックアップ体制を構築する。
 - ② 研修（事業所内、外）に参加する機会を作る。（全職員参加）
 - ③ 計画的にWEB研修を実施する。（全職員参加）
 - (3) 業務改善を推進し、生産性の向上に取り組む。
 - ① 職員個々が気づきを増やし、職場の課題を分析する。
 - ② 定期的に業務の見直しをする。（3ヶ月に1回）
- 2 経営意識の向上を図り、安定した事業運営を目指す。
 - (1) 入居稼働率99%以上を目指し、安定した収入を確保する。
 - ① 積極的に関係機関や施設等に出向き広報活動を行い、待機者を確保する。（広報件数月20件以上）
 - ② 健康管理や関係職種と連携を図り、入院者や退去者の減少に努める。
 - (2) 経費節減に取り組み、支出を抑える。
 - ① 毎月資金支出を確認し、無駄な経費はないか確認する。
 - ② 職員の意識改革を行い、コスト管理を徹底する。
- 3 自然災害（地震・風水害・土砂災害）に備え事業所のある地域の実情に即した防災対策を構築する。
 - (1) 自然災害発生時における事業継続計画（BCP）に基づいた訓練を実施する。
 - ① 防災、危機管理能力の向上を目指す。
 - ② 事業継続計画（BCP）に向けた実践的な訓練を行う。（年2回）
 - ③ 定期的に防災備品の見直しを行い、災害に備える。（年2回）
 - (2) 災害時における地域との連携を密にする。
 - ① 運営推進会議等に地域に協力を働きかける。
 - ② 地域や関係機関との連携を密に取り、緊急時の協力体制を強化する。

グループホームかづらしま

年度目標

- 1 人材育成とチームケアの質の向上、情報共有の効率化を行い、サービスの質の向上を図る。
 - (1) チームケアによる質の高い認知症ケアの実現を目指す。
 - ① 経験年数や知識、能力に合った研修へ積極的に参加し、資格取得や個々のレベルアップに繋げる。(全職員研修参加)
 - ② 日々の業務の中で、OJT や OFF-JT を実施し、職員が外国人職員に対して知識・技術を指導する事で相互的な成長に繋げる。
 - ③ 職員一人ひとりが利用者の状態を把握してケアが行えるよう、観察をしっかりと行い、情報共有に努める。
 - (2) 職員の意識改革と対策を強化し、骨折事故ゼロを目指す。
 - ① 専門職と情報共有を図り、個人の身体状況、環境面に対して分析を行い、必要な支援を見極める。
 - ② ヒヤリハットを基に、事故の要因やリスクを職員間で共有し、事故防止に努める。
 - (3) 業務改善を推進し、生産性の向上に取り組む。
 - ① 5S 活動（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）を行い、職場環境を整備し業務の課題を分析する。(3 ヶ月に 1 回)
- 2 経営意識の向上を図り、安定した事業運営を目指す。
 - (1) 入居稼働率 99%以上を目指し、安定した事業運営に努める。
 - ① 広報活動を月 20 件以上行い、待機者の確保に努める。(常に 5 名)
 - (2) 無駄を省き、支出の削減に努める。
 - ① 物品や施設備品を丁寧に使用する。
 - ② 節水・節電に努め、無駄な支出の削減に努める。
- 3 自然災害（地震・風水害・土砂災害）に備え事業所のある地域の実情に即した防災対策を構築する。
 - (1) 事業継続計画（BCP）に基づいた訓練を実施し、災害時に備える。
 - ① 定期的な各訓練の実施や備蓄品の確認を行い、日頃から災害に対しての意識を高め、行動ができるように努める。
 - ② 地域の防災活動に参加できるよう、運営推進会議で情報共有する。

グループホームななつかたばみ

年度目標

- 1 人材育成とチームケアの質の向上、情報共有の効率化を行い、サービスの質の向上を図る。
 - (1) 4大目標の取り組みを推進し、事故対策の強化に努める。
 - ① 事故対策やリスクマネジメントの研修に参加し、職員個々の危機意識を高める。
 - ② 多職種と連携しケア方法の見直しや環境整備による事故対策を行い、事故防止に努める。
 - (2) 人材育成を行い、介護の質の向上を図る。
 - ① 研修や勉強会へ参加し、認知症についての理解を深め、専門的な認知症ケアに取り組む。(全職員研修参加)
 - ② 職員個々の課題を把握し、職員に応じた人材育成を行う。
 - ③ OJT と OFF-JT を組み合わせ外国人職員の実践力の向上に努める。
 - (3) 業務改善を推進し、生産性の向上に取り組む。
 - ① 5S 活動（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）を行い、職場環境を整備する。
 - ② 業務における課題を分析し、見直しを行う。(3ヶ月に1回)
- 2 経営意識の向上を図り、安定した事業運営を目指す。
 - (1) 入居稼働率 99%以上を目指す。
 - ① 常に待機者 5 名確保できるよう広報活動を行う。(月 20 件以上)
 - (2) コスト管理を行い無駄な支出を削減し経費節減に取り組む。
 - ① 節水、節電に努めムダをなくす。
 - ② 備品の掃除やメンテナンスを行い、修繕費を削減する。
- 3 自然災害（地震・風水害・土砂災害）に備え事業所のある地域の実情に即した防災対策を構築する。
 - (1) 非常災害時に迅速な行動が行えるよう取り組む。
 - ① 自然災害の実践的な訓練を実施し、全職員が的確な行動ができるようになる。(年 2 回)
 - ② 防災備品の準備や補充を行い災害に備える。(年 2 回)

グループホーム ゆうき

年度目標

- 1 人材育成とチームケアの質の向上、情報共有の効率化を行い、サービスの質の向上を図る。
 - (1) 4大目標の取り組みを推進し、介護のプロフェッショナルを育てる。
 - ① 研修会に参加し、専門的なケアを提供する。(全職員参加)
 - ② ヒヤリハット報告書を活用し、事故を未然に防ぐ。
 - (2) 職員の人材育成に努め、利用者個々の状態に応じたケアを行う。
 - ① 職員会やケアカンファレンスを活用し、認知症の理解を深める。
 - ② 職員個々の課題に応じた人材育成を行う。
 - ③ 専門的なケアが提供できるよう資格取得に取り組む。
 - (3) 業務改善を推進し、生産性の向上に取り組む。
 - ① 業務の課題を分析し、見直しを行う。(3ヶ月に1回)
- 2 経営意識の向上を図り、安定した事業運営を目指す。
 - (1) 入居稼働率99%以上を目指す。
 - ① 広報活動を継続的に行い、常に待機者が3名確保できるようにする。(月20件以上)
 - (2) 無駄を省きコスト削減に努める。
 - ① 食品、消耗品の定期的な在庫確認に努め無駄を省く。
 - ② 空調管理をこまめに行い、節電を心掛ける。
- 3 自然災害、(地震、風水害、土砂災害)に備え事業所のある地域の実情に即した防災対策を構築する。
 - (1) 非常災害時に備え地域住民と連携が図れる体制を整備する。
 - ① 地域住民に協力依頼ができるよう、日頃から地域との繋がりや訓練の参加を依頼する。(年1回地域住民との訓練実施)
 - ② 自然災害発生時に職員個々が迅速に行動できるよう実践的な訓練を実施する。(年2回)
 - (2) 事業継続計画(BCP)を活用した勉強会や見直しを定期的に行う。
 - ① 正確な情報収集と判断ができるようにする。
 - ② 事前の対策、被災時の対策を準備し業務の優先順位を整理しておく。
 - ③ 定期的に防災備蓄品の見直しを行い、災害に備える。(年2回)

総合福祉ゾーン

天空の里

- ・ 総合福祉ゾーン天空の里 ……P67
- ・ 特別養護老人ホームそよ風 ……P68
- ・ 養護老人ホーム山吹 ……P69
- ・ ケアハウスさくら草 ……P70
- ・ 認知症デイサービスセンターかわせみ…P71
- ・ デイサービスセンターこまどり ……P73
- ・ グループホームふくじゅ草の里 ……P74

総合福祉ゾーン天空の里

基本方針

総合福祉ゾーン天空の里は、中山間地域の福祉拠点として、地域の期待に応え信頼される事業運営を目指します。

また、近年頻発している自然災害に備え、地域との連携強化を図るとともに、より実践に近い防災・避難訓練を重ねることでゾーン全体の防災意識を高め、予期せぬ事態に備えます。

年度目標

- 1 職員の教育、指導を通じた意識改革により、利用者満足度の高いサービスに努める。
- 2 労働環境の充実を図り、職員の定着に取り組むとともに、新たな人材の確保に努める。
- 3 運営状況を常に意識し、安定した事業運営に努める。
- 4 地域と連携強化を図り、来るべき災害に備え、危機管理対策を構築する。

特別養護老人ホームそよ風

年度目標

- 1 職員の教育、指導を通じた意識改革により、利用者満足度の高いサービスに努める。
 - (1) 4大目標の取り組みを推進し、介護力の向上を図る。
 - ① データに基づき、ケア方法の統一、環境設定の見直し、福祉用具の活用等、個々に応じた適切な対策を講じることで重大事故を防止する。
 - ② OHATにて利用者の口腔機能を評価し、利用者に応じた口腔ケアを実施することで誤嚥性肺炎を予防する。
 - ③ OJTを活用した指導方法を実践し、個々のスキルアップを図る。
 - ④ 外国人職員は個々の能力に沿って指導を行い、業務遂行能力を高める。
 - (2) 看取りケアに関する理解を深め、内容を充実させる。
 - ① 看取り意向調査を年2回実施し、意向に沿った看取りケアを実践する。
 - ② 勉強会を年1回以上開催し、看取りに関する実践力向上を図る。
- 2 労働環境の充実を図り、職員の定着に取り組むとともに、新たな人材の確保に努める。
 - (1) 風通しのよい職場環境を構築する。
 - ① 職場環境に関する意見を積極的に聴取し、迅速な対応を図る。
 - ② 生産性向上委員会を設置し、業務内容を精査すると共に役割分担を見直すことにより業務改善を図る。
- 3 運営状況を常に意識し、安定した事業運営に努める。
 - (1) 稼動目標を設定し、職員の経営意識を向上させる。
 - ① 入所稼働率98%、短期入所稼働率90%を目標に掲げ、申込み先や地域などを的確に分析し、計画的に広報活動を実施する。
 - ② 毎月開催する運営会議にて、収支の状況を分析し対策を講じる。
- 4 地域と連携強化を図り、来るべき災害に備え、危機管理対策を構築する。
 - (1) 防災計画に沿った訓練を実施し、災害時の実践力を高める。
 - ① 訓練内容を随時見直し、実践的且つ効果的な訓練を実施する。
 - ② 定期的にマニュアルやBCPについての見直しを図る。

養護老人ホーム 山吹

年度目標

- 1 職員の教育、指導を通じた意識改革により、利用者満足度の高いサービスに努める。
 - (1) 4大目標を推進し、質の高いサービス提供に努める。
 - ① 多職種協同で利用者のアセスメントを実施し、ケア内容、環境設定、福祉用具を見直すことで重大事故を防止する。
 - ② 懇談会や個別聴取でニーズを把握し、行事や余暇活動へ反映させる。
 - ③ 病状や看取りに関する意向を関係機関と共有し、ケア内容を定め、統一した看取りケアを実践する。
 - (2) 介護実践力の向上に取り組む。
 - ① 研修計画を立案し、Web研修・内部研修・外部研修へ積極的に参加する。
 - ② 能力や経験に応じた個別指導を随時実施し、実践力の向上を図る。
 - ③ 外国人職員は個々の能力に沿って指導を行い、業務遂行能力を高める。
- 2 労働環境の充実を図り、職員の定着に取り組むとともに、新たな人材の確保に努める。
 - (1) 働きやすい職場環境作りに取り組む。
 - ① 個々の事情を正確に把握し、各種休暇制度の利用を促進する。
 - ② 定期的に個別面談を実施し、職場環境に関する不安や悩みを聴取する機会を設け、適切な対策を講じる。
- 3 運営状況を常に意識し、安定した事業運営に努める。
 - (1) 運営目標を明確に示し取り組むことで、職員の経営意識の向上を図る。
 - ① 稼働率98%を目標に、計画的な広報活動を展開し、待機者を確保する。
 - ② 利用者の病状を的確に把握し、異常の早期発見に努める。
 - ③ 運営会議を開催し、収支状況に応じた対策を職種間で検討する。
- 4 地域と連携強化を図り、来るべき災害に備え、危機管理対策を構築する。
 - (1) 計画に基づいた訓練を実施し、職員の対応力の向上を図る。
 - ① 実践的な訓練を通して、全職員が災害発生時の対応力を身に付ける。
 - ② 地域と合同での防災訓練を実施し、非常時の役割等について相互に確認することで災害時の連携強化を図る。
 - ③ 訓練結果を基にマニュアル・BCPの内容を定期的に見直す。

ケアハウス さくら草

年度目標

- 1 職員の教育、指導を通じた意識改革により、利用者満足度の高いサービスに努める。
 - (1) 人材育成への取り組みに努める。
 - ① 研修への参加がしやすい環境を整える。
 - ② 資格取得を促進し、職員のスキルアップに繋げる。
 - ③ 多職種で連携し、統一した質の高いサービスの提供を行う。
 - (2) 利用者が健康的な生活を営むことができるサービスを提供する。
 - ① 常に利用者の視点に立ち、サービスのあり方を検討していく。
 - ② OHAT の導入を行い、口腔内の清潔保持に努め肺炎予防に努める。
 - ③ 体調変化など細かな異変に早めに対応し予防的なケアを実践していく。
- 2 労働環境の充実を図り、職員の定着に取り組むとともに、新たな人材の確保に努める。
 - (1) 定期的に業務内容の見直し、整理を行い働きやすい環境にする。
- 3 運営状況を常に意識し、安定した事業運営に努める。
 - (1) 関係機関との連携を密に行い、安定した稼働率を目指す。
 - ① 毎月 30 件以上の広報活動を行い、待機者の確保に努める。
 - ② 待機者の状態確認を定期的に行い、スムーズな入退居調整に努める。
 - (2) 重大事故を未然に防げるよう環境を整える。
 - ① 多職種間で意見を出し合い、生活環境の整備や福祉用具の検討等を行い、事故の再発防止に努める。
 - ② ヒヤリハット報告書を分析し、重大事故を未然に防いでいく。
- 4 地域と連携強化を図り、来るべき災害に備え、危機管理対策を構築する。
 - (1) 防災訓練を重ね、有事に備えた実践を進める。
 - ① 地域住民とともに、より実践に近い形で防災訓練を行っていく。
 - ② 防災を意識した環境調整を行っていく。
 - ③ 日頃から地域との交流に注力し、地域住民との関りを大切にすることで、親しみを持っていただけるよう努める。

認知症デイサービスセンター かわせみ

年度目標

- 1 職員の教育、指導を通じた意識改革により、利用者満足度の高いサービスに努める。
 - (1) 資質向上と人材育成に取り組む。
 - ① 介護福祉士等の資格取得を目指す。
 - ② 内外研修に積極的に参加し、認知症や介護全般についての知識及び技術の習得に努める。
 - ③ 意見交換できる雰囲気作りを行い、互いを尊重し合う。
 - (2) 認知症利用者が安心して利用できる事業所作り。
 - ① 認知症対応型事業所の特性を活かすため、認知症についての理解を深め、利用者を受容することで様々なニーズに対応する。
 - ② 個別活動やレクリエーションの幅を広げ、利用者の個別性に対応する。
- 2 労働環境の充実を図り、職員の定着に取り組むとともに、新たな人材の確保に努める。
 - (1) 職員がやりがいを感じる職場環境作りに取り組む。
 - ① 有給休暇を計画的に取得する。
 - ② 職員の様々な状況を把握し、業務に専念できるよう適切な助言を行う。
 - (2) 職員間で互いに協力し、助け合える環境作りに努める。
 - ① コミュニケーションを密に図り、良好な関係の構築に努める。
 - ② 職員会等で職員個々が発言できる機会を作り、相互理解に努める。
- 3 運営状況を常に意識し、安定した事業運営に努める。
 - (1) 利用者の健康管理に努め、安定した利用に繋げる。
 - ① 心身状態の観察と把握を行い、異常の早期発見対応を行う。
 - ② 研修等により感染症に対し知識を得、感染対策を確実に実施する。
 - ③ 積極的にヒヤリハット報告書を作成し、危険リスクの気付きを養う。
 - ④ 多職種と連携し、利用者個々の心身機能や生活に応じた環境整備を行う。
- 4 地域と連携強化を図り、来るべき災害に備え、危機管理対策を構築する。
 - (1) 利用者が住み慣れた地域の中で安心して生活ができる。
 - ① 定期的にBCP（業務継続計画）、マニュアルの見直しを行い、周知する。

- ② 関係事業所と協力体制を構築し、実効性のある防災訓練を行う。
- ③ 運営推進会議等で地域住民との関係性を築き、有事の際の相互の協力体制を構築する。

デイサービスセンターこまどり

年度目標

- 1 職員の教育、指導を通じた意識改革により、利用者満足度の高いサービスに努める。
 - (1) 専門知識を活かしたケアを提供する。
 - ① 職員のケア技術の向上、専門知識を身につける。
 - ② 認知症ケア、介護全般の研修等に計画的に参加する。
 - (2) 利用者個々のニーズに沿ったサービスを提供する。
 - ① 心身状態に応じた生活環境の見直し、必要な福祉用具の検討を行う。
 - ② 訓練、活動等に多様性を持たせる。
- 2 労働環境の充実を図り、職員の定着に取り組むとともに、新たな人材の確保に努める。
 - (1) 職員が働きやすい職場環境の整備を行う。
 - ① 定期的に業務分担や業務内容の見直しを行い、効率化を図る。
 - ② コミュニケーションを密に図り、相互理解と共に協力しやすい関係を築く。
 - ③ 地域活動等に参加し、行政含め地域住民との関係性を深め、地域に根差した事業所として報知する。
- 3 運営状況を常に意識し、安定した事業運営に努める。
 - (1) 稼働率向上に努める。
 - ① 居宅介護支援事業所と連携を図り、空き枠等の調整をスムーズに行う。
 - (2) 事故防止に努める。
 - ① 利用者の状態の変化について申し送り、早急な対応を行う。
 - ② ヒヤリハット報告書を作成し、リスクについての気づきを養う。
 - ③ 利用者の状態に応じた生活環境を整備し、事故のリスクを軽減する。
- 4 地域と連携強化を図り、来るべき災害に備え、危機管理対策を構築する。
 - (1) 地域と共に災害対策の構築に努める。
 - ① BCP(業務継続計画)に基づき、防災訓練を実施する。
 - ② 嶺北地域の防災活動に参加し、共助、公助の関係性を強化する。

グループホームふくじゅ草の里

年度目標

- 1 職員の教育、指導を通じた意識改革により、利用者満足度の高いサービスに努める。
 - (1) ケアの質、暮らしの質を保障し、ニーズに応じたサービスを提供する。
 - ① 情報の共有化やケアの統一化を図り、介護事故防止を図る。
 - ② 個々に応じた福祉用具の選定、環境整備を実行し、評価をしていく。
 - (2) リスクマネジメントに対する意識の向上を図る。
 - ① 研修や勉強会への参加、資格取得支援など成長を後押しする機会を整える。
- 2 労働環境の充実を図り、職員の定着に取り組むとともに、新たな人材の確保に努める。
 - (1) 働きやすい職場環境を整え、職員の定着化に繋げていく。
 - ① ノーリフティングケアの実践を推進し、役割分担を明確にして業務改善を行い身体的、精神的負担を軽減していく。
- 3 運営状況を常に意識し、安定した事業運営に努める。
 - (1) 運営目標を明確に示し、管理者が常に目標を意識し行動する事で安定化を図る。
 - ① 積極的な広報活動により、地域の関係機関と密な関係性を保ちながら的確な判断でスムーズな入退居の調整を図っていく。
 - ② 稼働率 98.5%以上の目標を設定し、支出においても経費削減を実践していく。
- 4 地域と連携強化を図り、来るべき災害に備え、危機管理対策を構築する。
 - (1) 自然災害発生時に備えた防災・減災対策に取り組みます。
 - ① 事業所の災害リスクを確認し、業務継続計画（BCP）の作成、見直し、更新をおこなっていく。
 - ② 行動力を鍛える実状に応じた災害訓練を実施していく。
 - (2) 災害時に支え合える連携体制を構築していく。
 - ① 地域との繋がり促進を図り、相互の応援協力体制ができる仕組み作りに努めていく。

総合福祉ゾーン やだけの里

- ・ 総合福祉ゾーンやだけの里 ……P76
- ・ 特別養護老人ホーム矢野 ……P77
- ・ 小規模多機能型居宅介護響 ……P78
- ・ デイサービスセンター彩 ……P79
- ・ 居宅介護支援事業所蒼 ……P81

総合福祉ゾーン やだけの里

基本方針

総合福祉ゾーンやだけの里は、各事業所において質の高いサービスを提供するため、職員個々のマネジメント力を向上させ、利用者や入居者の事故防止、日々の健康管理に努めます。また、地域住民との関係性をより深め、地域に信頼される施設運営を行います。

施設整備に関しては、介護職員宿舎の建築に向けて計画的な取り組みを行います。

年度目標

- 1 4大目標達成に向け、専門性に基づいた質の高いサービスの提供に努める。
- 2 各事業所が運営目標を明確にし、計画的な事業運営を図る。
- 3 非常災害に対する体制強化や感染症対策の徹底を行う。
- 4 地域行事へ積極的に出向き、地域住民との連携強化を継続的に行う。
- 5 職員宿舎の建築を円滑に行うため進捗状況を管理する。

特別養護老人ホーム 矢野

年度目標

- 1 4大目標達成に向け、専門性に基づいた質の高いサービスの提供に努める。
 - (1) 4大目標達成に向けた取り組み推進する。
 - ① 事故報告書、ひやりはっと及び転倒リスクアセスメントにて事故発生リスクが高い利用者を把握し、事故防止のため損害軽減策を講じる。
 - ② 嚥下機能や口腔内の状況を定期的に評価し、個々に応じた食事形態や口腔ケア方法等を周知することで誤嚥性肺炎を予防する。
 - ③ 研修計画を立て、計画的に研修へ参加することで職員の資質向上に努める。
- 2 各事業所が運営目標を明確にし、計画的な事業運営を図る。
 - (1) 経営状況を意識し、目標を定め進捗管理を徹底する。
 - ① 入所稼働率 98%、短期入所稼働率 90%を目標に、施設での取り組みや空床情報を積極的に外部へ発信することで、待機者を確保する。
 - ② 運営会議で稼働率・収支状況を分析し、目標達成に向けた対策を講じる。
 - ③ 生産性向上委員会を設置し、業務効率の改善に向けた取り組みを実施する。
 - ④ 利用者の体調管理を徹底し、異常の早期発見、早期対応に努める。
- 3 非常災害に対する体制強化や感染症対策の徹底を行う。
 - (1) 非常災害に向けた取り組みを継続することで職員の防災意識を向上させる。
 - ① 非常災害に対する具体的且つ実践的な訓練を実施し、マニュアルやBCPの内容について定期的に見直すと共に職員へ周知する。
 - (2) 感染拡大防止に向け、感染症予防対策の徹底を図る。
 - ① 感染症BCPに基づき研修及び訓練を年2回以上実施し、感染予防策及び感染症発生時の対応を全職員へ周知する。
- 4 地域行事へ積極的に出向き、地域住民との連携強化を継続的に行う。
 - (1) 地域との交流を継続し、地域との連携を図る。
 - ① 地域行事の開催予定を把握し、計画的に参加する。
 - ② 地域交流スペースの活用を積極的に勧め、地域との協力体制を確立する。
- 5 職員宿舍の建築を円滑に行うため進捗状況を管理する。
 - (1) 建築の進捗状況を的確に把握する。
 - ① 建築業者と連携し、建築行程を把握すると共に、入寮に向けた準備を進める。

小規模多機能居宅介護 響

年度目標

- 1 4大目標達成に向け、専門性に基づいた質の高いサービスの提供に努める。
 - (1) 職員の質の向上、スキルアップを行う。
 - ① 法人内外の認知症ケア研修について計画的に参加する。
 - ② 口腔ケア推進士の取得、適切な知識や技術を習得する。
 - ③ 担当利用者に対しアセスメントシートを活用することで利用者の課題を個々に捉える力を養う。
 - ④ ヒヤリハットや事故対策を見直し、リスク管理を行う事で重大事故を未然に防ぐ。
- 2 各事業所が運営目標を明確にし、計画的な事業運営を図る。
 - (1) 地域にとって信頼できる事業所として確立する。
 - ① ご家族や各関係機関と連携を密に行い迅速かつ誠実に対応する。
 - ② 職員個々の役割や責任を明確にし、一人一人が当事者意識を持って行動する。
 - (2) 経営意識を醸成する。
 - ① 登録者 92%以上を保ち、ゾーンの各事業所と連携し適切なマネジメントとサービス調整を行いつつ、新規利用者の獲得に努める。
 - ② 職員全員がコスト意識をもち、業務の効率化や改善に取り組む。
 - ③ 適切な送迎計画を立て、交通法規を厳守し、常にゆとりのある運転を行い事故防止に努める。
- 3 非常災害に対する体制強化や感染症対策の徹底を行う。
 - (1) 感染防止の基本の徹底とまん延予防。
 - ① 職員や利用者の健康管理を行い異常の早期発見に努める。
 - ② 日ごろから環境整備や標準感染予防対策を徹底する。
 - (2) 非常災害時の体制強化。
 - ① 災害時に迅速に対応できるようゾーン内の定期訓練、地域の防災訓練に参加する。
 - ② 緊急時の連絡体制、避難場所等をご家族と共有する。
- 4 地域行事へ積極的に出向き、地域住民との連携強化を継続的に行う。
 - (1) 地域との連携と情報共有。
 - ① 地域包括支援センター、社協、自治体や地域住民の活動の場などの地域資源を活用したネットワークを継続させる。
 - ② 積極的な地域活動への参加、ボランティアの受け入れを行う。

デイサービスセンター彩

年度目標

- 1 4大目標達成に向け、専門性に基づいた質の高いサービスの提供に努める。
 - (1) 利用者の身体機能の維持、向上を目指す。
 - ① ケアプランをもとに個々のニーズを知り、一人ひとりの身体機能に応じたケアを行う。
 - ② ヒヤリハットを積極的に提出し、リスクマネジメント力を高めることで事故を未然に防ぐ。
 - ③ 誤嚥性肺炎予防のため、口腔機能について定期的に評価し、口腔ケアを充実させる。
 - (2) 職員のスキルアップを図る。
 - ① 外部、内部問わず、積極的に研修に参加する。
 - ② 研修内容を職員間で情報共有し、意見交換を行う。
- 2 各事業所が運営目標を明確にし、計画的な事業運営を図る。
 - (1) 職員の定着と各々の役割を明確にしてチーム力の向上を目指す。
 - ① それぞれの役割やスキルを尊重し、互いに協力し合える関係性を築く。
 - ② 職員会や申し送り等で発言の機会を作り、職員間で同じ意識や目標をもって業務を行う。
 - (2) 稼働率を向上させる。
 - ① 計画的に広報活動を行い、新規利用者の獲得に努める。
 - ② 効率的且つ安全に業務遂行できるように業務の見直しや改善を行う。
 - ③ 利用者及びご家族との信頼関係を築きサービス内容を充実させることで、利用者満足度の向上と定着に努める。
- 3 非常災害に対する体制強化や感染症対策の徹底を行う。
 - (1) 様々な災害に対応できるようにする。
 - ① 災害時の送迎方法、送迎場所など、家族や関係事業所を通して定期的に確認する。
 - ② BCP(業務継続計画)に基づき、定期的に避難訓練を行い、行動の確認、マニュアルの見直し等を行う。
 - (2) 感染症対策を徹底する。

- ① 職員が感染源とならないように健康管理、感染対策に努める。
- ② 利用者及びご家族と情報共有し、健康観察と異常時には早期対応を行う。

4 地域行事へ積極的に出向き、地域住民との連携強化を継続的に行う。

(1) 地域との連携を強化する。

- ① 利用者の住む近隣住民もコミュニケーションを図り信頼関係を構築する。
- ② 地域のボランティアや幼稚園、保育園等と交流の機会を持つ。
- ③ 送迎時には、施設の顔として自覚を持った運転マナーと挨拶を行う。

居宅介護支援事業所 蒼

年度目標

- 1 4大目標達成に向け、専門性に基づいた質の高いサービスの提供に努める。
 - (1) 転倒や骨折、誤嚥性肺炎防止に向けた視点でアセスメントを行い、健康維持に特化したケアプランの立案を行う。
 - (2) 各専門職との連携を図り、状態に応じた環境整備やサービス調整を行い、在宅生活が継続できるよう支援を行う。
- 2 各事業所が運営目標を明確にし、計画的な事業運営を図る。
 - (1) 関係機関との信頼関係を構築し、新規利用者の獲得に繋げる。
 - (2) 有給休暇の管理を行い、計画に基づいた取得を行う。
- 3 非常災害に対する体制強化や感染症対策の徹底を行う。
 - (1) 利用者の居住地における非常災害時の避難場所等確認し、周知徹底する。
 - (2) 訪問時、感染源にならないように感染予防策の徹底を行う。
- 4 地域行事へ積極的に出向き、地域住民との連携強化を継続的に行う。
 - (1) 地域ケア会議や地域包括支援センター主催のミーティング等へ、積極的に参加を行い、最新の情報収集に努める。

赤とんぼの里

- ・ 赤とんぼの里 ……P83
- ・ ケアハウスアゼリア（特定） ……P84
- ・ トマト指定通所介護センター ……P86
- ・ トマト指定居宅介護支援センター ……P88

赤とんぼの里

基本方針

法人理念、運営方針に基づき、データを活用した質の高いサービスの提供、職員個々のレベルに応じた人材育成に努め、利用者、家族、地域の皆様に信頼される事業所を目指します。

また、BCPに基づいた災害対策や感染症防止対策に平常時から危機意識をもって取り組み、実践力の向上に努めます。

さらに、広報活動や実習生の受け入れ等を通じて、地域社会の福祉の充実・発展に貢献できるよう積極的に活動してまいります。

年度目標

- 1 4大目標の達成に向けて、職員個々のレベルに応じた研修参加や資格取得を促進するとともに、多職種が情報を共有することで、根拠に基づいたケアプランを作成し、質の高いサービスの提供に繋げていく。
- 2 各事業所の運営目標を事業所間で共有し、連携に努めることで、経営意識向上を図り、目標を着実に達成する。
- 3 各種休暇制度の利用促進、業務の電子化・簡素化の推進により、働きやすい職場環境整備に努める。また、外国人介護職員にとって働きやすい環境作りに取り組むことでモチベーションアップに繋げていく。
- 4 BCPに基づいた災害対策や感染症防止対策に平常時から危機意識をもって取り組む。
- 5 広報活動や実習生の受け入れ等を積極的に行い、次世代の人材育成、地域社会の福祉の充実・発展に貢献する。
- 6 地域ネットワークへ積極的に関わることで、地域におけるニーズを把握し、自らが地域資源となれるよう取り組みを発信していく。

ケアハウスアゼリア（特定施設入居者生活介護）

年度目標

- 1 4大目標の達成に向けて、職員個々のレベルに応じた研修参加や資格取得を促進するとともに、多職種が情報を共有することで、根拠に基づいたケアプランを作成し、質の高いサービスの提供に繋げていく。
 - (1) 職員個々のレベルに応じた、意識、知識、技術の向上を図り、専門性を高める。
 - ① WEB研修を含め、内外部研修へ積極的に参加出来るよう、計画を立て、専門的な知識、技術、資格の取得に努め、自らの役割を自覚する。
 - ② 伝達講習をととして、研修内容を職員間で共有する。
 - (2) データを活用した他職種の連携に努め、根拠に基づいたケアプランを作成し、質の高いサービス提供に努める。
 - ① 一人ひとりに合ったケアを行うため、年2回のOHATと骨密度測定の実施等によるデータを活用し、多職種で情報を共有し質の高いサービスの提供に努める。
 - ② 担当省会議、ケアカンファレンスをととして、携わる職員全員がリスクを把握し統一したケアを行う。
 - ③ 事故やヒヤリハットの集計結果から、内容の把握と確認、そして精査を行い、未然に対策を講じることで、類似する事故の再発防止に努める。
- 2 各事業所の運営目標を事業所間で共有し、連携に努めることで、経営意識向上を図り、目標を着実に達成する。
 - (1) 運営に対する意識向上に努める。
 - ① 毎月の運営会議で事業進捗状況に対する評価と課題から今後の取り組みに繋げ、収支の情報を共有することで経営意識を向上し目標の達成に努める。
- 3 各種休暇制度の利用促進、業務の電子化・簡素化の推進により、働きやすい職場環境整備に努める。また、外国人介護職員にとって働きやすい環境作りに取り組むことでモチベーションアップに繋げていく。
 - (1) 働きやすい職場環境作りに取り組む。

- ① 有休管理表に基づき、計画的に有給休暇を取得する。
- ② 各種休暇制度を利用し、従業員の離職防止や定着に努める。
- ③ 年2回の職員面談をととして職員の状態把握をする。
- ④ 外国人介護職員の長期定着化に向け、受け入れ後は外国人向けに開催される外部研修へ参加し専門性を高める。また、3ヶ月ごとに面談を行い状態の把握をする。一時帰国の希望に対しての調整をする。

4 BCPに基づいた災害対策や感染症防止対策に平常時から危機意識をもって取り組む。

(1) 災害対策、感染防止対策を講じる。

- ① 地域との合同避難訓練等をつうじて、ハザードマップ、マニュアルを周知する。
- ② 平常時からの研修、訓練を通して災害時の対応内容を確認し、実践力の向上に努める。

5 広報活動や実習生の受け入れ等を積極的に行い、次世代の人材育成、地域社会の福祉の充実・発展に貢献する。

(1) 広報活動を通じて、事業所の取り組み、空床状況を発信し、地域ニーズの把握し、毎月3名の待機者確保に努める。

(2) 福祉施設への関心が高められるよう、職場体験、ソーシャルワーク実習を積極的に受け入れ、ひとりでも多くの人に知ってもらい人材確保に繋げる。

(3) 調和のとれた安全、安心な、地域に開かれた施設環境を構築する。

- ① 福祉避難所としての役割、感染症の動向を把握し、実効性のある予防策や発症時に適切な対応ができるよう、非常災害時の対応内容を確認し地域との連携を図る。

6 地域ネットワークへ積極的に関わることで、地域におけるニーズを把握し、自らが地域資源となれるよう取り組みを発信していく。

(1) 野西圏域ケア会議等の地域で開催される情報共有の場に参加する。

トマト指定通所介護センター

年度目標

- 1 4大目標の達成に向けて、職員個々のレベルに応じた研修参加や資格取得を促進するとともに、多職種が情報を共有することで、根拠に基づいたケアプランを作成し、質の高いサービスの提供に繋げていく。
 - (1) 職員に必要な研修や資格取得を促しスキルアップを目指す。
 - ① 個々に必要な内外部研修等に参加する。
 - ② 口腔ケア推進士や介護福祉士の資格取得に努める。
 - ③ 研修に参加した職員は伝達講習を行い、職員間で共有する。
 - (2) 情報収集したデータに基づき、利用者ニーズに寄り添った通所介護計画書の作成を行う。
 - ① サービス担当者会議に参加し、情報の共有を行う。
 - ② 利用者や家族との会話等から新たな情報を得られたときは、事業所内の担当者会議やカンファレンスにて共有を行う。
- 2 各事業所の運営目標を事業所間で共有し、連携に努めることで、経営意識向上を図り、目標を着実に達成する。
 - (1) 運営目標を全職員が認識し、経営意識を高める。
 - ① 職員が見やすい場所に事業計画を掲示し、意識向上に努める。
 - ② 毎月行われる運営会議にて運営目標を立て、事業所間で情報の共有を行う。
 - (2) 職員全員で経費削減に取り組む。
 - ① 車椅子や手すり等の点検を毎日のチェック項目に入れ行う。
 - ② 備品や物品の破損は早期に発見し報告することで、最小限の修理で済むよう努める。
 - ③ 職員一人ひとりが節電や節水の意識を持つ。
- 3 各種休暇制度の利用促進、業務の電子化・簡素化の推進により、働きやすい職場環境整備に努める。また、外国人介護職員にとって働きやすい環境作りに取り組むことでモチベーションアップに繋げていく。
 - (1) 全職員が計画的に有給休暇取得する。
 - (2) 全職員が各種申請や電子決裁作成方法を習得し、スムーズに申請できる。

- 4 B C Pに基づいた災害対策や感染症防止対策に平常時から危機意識をもって取り組む。
 - (1) B C Pに沿った避難訓練を年 3 回実施する。
 - (2) 全職員が感染症対策を確実に実施する。
- 5 広報活動や実習生の受け入れ等を積極的に行い、次世代の人材育成、地域社会の福祉の充実・発展に貢献する。
 - (1) 兵庫県が取り組んでいる、地域の中学生の職業体験トライやるウィークを積極的に受け入れる。
 - (2) ソーシャルワーク実習生に、デイサービスの行事への参加、広報活動への同行をしてもらうことで、地域資源としての赤とんぼの里をアピールする。
- 6 地域ネットワークへ積極的に関わることで、地域におけるニーズを把握し、自らが地域資源となれるよう取り組みを発信していく。
 - (1) 地域で開催されているサロンに参加し交流を深める。

トマト指定居宅介護支援センター

年度目標

- 1 4大目標の達成に向けて、職員個々のレベルに応じた研修参加や資格取得を促進するとともに、多職種が情報を共有することで、根拠に基づいたケアプランを作成し、質の高いサービスの提供に繋げていく。
 - (1) 法人内やゾーン内で開催される内部研修や外部・Web研修に積極的に参加し、介護支援専門員としての専門知識や技術の向上に努める。
 - (2) 利用者の状態や取り巻く状況に関する情報を収集・分析し、事業所全体のケアマネジメントの質の向上に努める。
- 2 各事業所の運営目標を事業所間で共有し、連携に努めることで、経営意識の向上を図り、目標を着実に達成する。
 - (1) 毎月開催される運営会議に参加し、事業の進捗状況を確認することで、運営目標の達成に向けて、職員一人ひとりの意識づけに努める。
 - (2) 各委員会のからの情報発信を受け活動内容を把握し、職員への周知に努める。
- 3 各種休暇制度の利用促進、業務の電子化・簡素化の推進により、働きやすい職場環境整備や有給休暇の計画的取得に努める。
 - (1) 電子決裁システムを活用し、業務の効率化に努める。
- 4 BCPに基づいた災害対策や感染症防止対策に平常時から危機意識をもって取り組む。
 - (1) 自然災害や感染症のBCPの研修や訓練に参加することで、日頃から職員のリスクに対する意識の向上に努める。
 - (2) 平常の訪問時に、利用者に対して災害対策や感染防止の情報提供を行い、緊急時に備えた対策に努める。
- 5 広報活動や実習生の受け入れ等を積極的に行い、次世代の人材育成、地域社会の福祉の充実・発展に貢献する。
 - (1) 広報活動を通じて外部事業所と連携を図り、地域との新たなネットワークづくりに努める。
- 6 地域ネットワークへ積極的に関わることで、地域におけるニーズを把握し、自らが地域資源となるよう取り組みを発信していく。
 - (1) 龍野西圏域ケア会議や行政主催の情報共有の場に参加する。
 - (2) 地域の行事や訓練への参加に力を入れ、地域における新たな地域ニーズの発見や社会資源の開発への貢献に努める。

特別養護老人ホーム 安寿の里

・ユニット型特別養護老人ホーム安寿の里・・・P90

ユニット型特別養護老人ホーム 安寿の里

基本方針

特別養護老人ホーム安寿の里は、利用者・家族、また、職員・その家族、地域の方が安心して信頼できる施設を目指し、質の高いサービスの提供に努めるとともに、地域事業等へ積極的に参加し、運営の安定化を図ります。

また、危機管理体制として、感染症対策や災害時の対応を強化し、BCP等を踏まえた対策に取り組みます。

年度目標

- 1 多職種の連携により、利用者の満足度が高いサービスを提供する。
 - (1) 利用者の状況に応じて課題を分析し、福祉用具や生活環境の見直しを行い、安心して生活できる環境の維持と事故防止に努める。
 - (2) 多職種によるアセスメントと適切な健康管理を行い、精神的、身体的に充実した個別ケアを実施し、認知症ケアや看取りケアに取り組む。
- 2 安定した事業運営を目指す。
 - (1) 地域事業等へ参加し、情報の発信と収集を行い、長期入所稼働率 98%の維持と短期入所稼働率 90%を達成する。
 - (2) 施設内研修や外部研修への参加、外国人職員に対する学習支援を通じて、介護技術のスキルアップと資格取得を目指す。
 - (3) 職場体験やインターンシップ、特待生制度を推進し、職員の確保につなげる。
- 3 感染症、防災等の危機管理対策を強化する。
 - (1) 感染症に対する内部研修を年 2 回以上実施し、専門的な知識を学び施設内での感染予防に努める。
 - (2) 自然災害や原子力災害に備えた地域合同訓練へ年 2 回以上参加し、地域連携と BCP に基づく危機管理体制に取り組む。

新居浜事業所

- ・新居浜事業所 ……P92
- ・小規模特別養護老人ホームつばき ……P93
- ・グループホームけやきの里 ……P94
- ・グループホームあかがね ……P95
- ・グループホームしおさい ……P96

新居浜事業所

基本方針

新居浜事業所は、住み慣れた地域で安心して生活できるよう、多職種連携による質の高いサービスを目指します。また、運営目標を明確にし、職員の経営意識向上を図ることで安定した事業運営に取り組みます。

危機管理対策において、事業継続計画の見直し及び計画的に訓練を実施することで対応力の向上に努めます。

年度目標

- 1 他職種連携による質の高いサービスの実現を目指す。
- 2 運営目標を明確にすることで、経営意識の向上を図り、安定した事業運営に取り組む。
- 3 自然災害に備え、事業継続計画の見直し及び避難訓練を実施し、対応力の向上に努める。

小規模特別養護老人ホーム つばき

年度目標

- 1 他職種連携による質の高いサービスの実現を目指す。
 - (1) 各職種が同じ目線に立ち、利用者一人ひとりの状態に応じたサービスの実践に努める。
 - ① 多職種連携にて、個々の病状や身体状況、望む生活に適した個別ケアプランを作成し、ユニットリーダーを中心に統一したケアを提供する。
 - (2) リスクマネジメントの強化を図る。
 - ① 各職種と連携し、事故報告及びヒヤリハットに関する検証、安全対策の可視化・体制を充実させることで重大事故を予防する。
 - (3) 職員個々のスキルアップに努める。
 - ① 計画的に施設内外の研修に参加し、外国人職員の介護福祉士資格取得、介護職員の経験年数に応じたスキルアップのための資格取得を目指す。
 - (4) 生活環境や必要な福祉用具の検討を行い、安心安全な生活を確保する。
 - ① ノーリフティングケアへの取り組みを行い、個々に応じた適切な福祉用具を選定し活用することで、利用者及び職員の負担軽減に努める。
- 2 運営目標を明確にする事で、経営意識の向上を図り、安定した事業運営を目指す。
 - (1) 事業所の収益を把握し、経営意識を高める。
 - ① 年間稼働率 99%以上確保できるよう、収支状況の増減要因を分析し、意識改革に取り組む。
 - (2) 待機者を常時 2 名確保すると共に、入所者の病状管理を徹底する。
 - ① 地域の特性やニーズ等を把握し、事業所間のネットワーク体制を構築し、利用者確保に努める。
 - ② 歯科医との連携により、個々に応じた食事形態や、用具の選定と適切な口腔ケア用品を活用し、口腔機能の維持・回復と誤嚥性肺炎ほか感染予防に努める。
- 3 自然災害に備え、事業継続計画の見直し及び避難訓練を実施し、対応力の向上に努める。
 - (1) 防災訓練による防災意識の強化、防災備蓄を確保する。
 - ① 毎月訓練を実施する。
 - ② 年 1 回、計画的な備蓄品の確保と見直しを行い大規模災害に備える。

グループホームけやきの里

年度目標

- 1 他職種連携による質の高いサービスの実現を目指す。
 - (1) 思いやりをもって丁寧なサービスを提供する。
 - ① 認知症を理解し、同じ目線に立った生活支援を行う。
 - ② 事故を未然に防ぎ安心した生活が送れるよう、利用者の小さな変化に気づき対応出来る職員の育成に努める。
 - ③ 外国人職員含め、全職員が個々の目標を持ち、知識・技術の習得ができるよう教育・指導するとともに、チームケアができるよう努める。
 - (2) 利用者、家族が安心できる看取りケアの充実を図る。
 - ① 利用者が最期まで施設での生活が送れるように、チームで寄り添った支援ができるように努める。
 - ② 利用者、家族の思いを把握し、意向に沿ったケアを提供する。
- 2 運営目標を明確にすることで、経営意識の向上を図り、安定した事業運営に取り組む。
 - (1) 収益について理解し、節水や節電、物品を丁寧に扱うほか、日々の環境整備に努める。
 - ① 業務内容、物品の取り扱い方法などを見直し、業務改善に取り組む。
 - (2) 利用者の健康管理に努め、安定した事業運営を目指す。
 - ① 利用者の日々の健康管理に努める。
 - ② 関係機関との情報共有を図り、待機者の確保に努める。
 - ③ スムーズな入居調整を行い、年間稼働率 99%以上を目指す。
- 3 自然災害に備え、事業継続計画の見直し及び避難訓練を実施し、対応力の向上に努める。
 - (1) 計画に沿った訓練の実施、連絡体制を把握する。
 - ① 繰り返し訓練を実施することで、防災・防犯への意識を高める。
 - ② いざという時の行動や連絡の方法を身に付け、災害時に備える。
 - ③ 災害時に協力体制が取れるように、日頃から地域との関係を構築する。

グループホームあかがね

年度目標

- 1 多職種連携による質の高いサービスの実現を目指す。
 - (1) 多職種と情報共有を行い、入居者へのより良いケアを模索し提供する。
 - ① 様々な観点からの考察が行えるよう毎日の状態観察を細かく行い、職員間での情報共有を密にとる。
 - ② 個々に応じたケアについて入居者や家族の意向に沿った支援を行う。
 - (2) 外部研修への参加や地域との関わりを増やし、職員個々のスキルアップを図る。
 - ① 計画的に研修へ参加し、コミュニティの輪を広げることで、情報の幅を広げ、職員個々のスキルアップや意識向上に努める。
 - ② 地域行事や定期的な会議などに参加し、入居者のより良い環境づくりに反映させていく。
- 2 運営目標を明確にする事で、経営意識の向上を図り、安定した事業運営を目指す。
 - (1) 年間稼働率 99%以上を目指し、安定した事業運営を行う。
 - ① 稼働率や入退居時等の情報共有を行い、職員 1 人 1 人が経営意識を持って業務に取り組む。
 - ② スムーズな入退居調整を行うため、待機者を常に確保できるよう広報活動を行う。
 - (2) 無駄な出費を減らし、支出額を抑えていく。
 - ① 水道光熱費などの出費を定期的に職員へ報告し、施設職員全員で節約の意識を持ちながら業務に取り組む。
 - ② 業務の内容や環境整備など、職員間でアイデアを出し合い出費を減らす工夫を行っていく。
- 3 自然災害に備え、事業継続計画の見直し及び避難訓練を実施し、対応力の向上に努める。
 - (1) 定期的にマニュアルに沿った訓練を行い、有事の際には的確な行動ができるよう努める。
 - ① BCPを用いた訓練を実施し、職員が非常災害時の役割を把握して、慌てることなく迅速な対応ができるように取り組む。

グループホームしおさい

年度目標

- 1 多職種連携による質の高いサービスの実現を目指す。
 - (1) 多職種との情報共有を行うことで、質の高いサービスの提供に取り組む。
 - ① 事故報告について、改善対策を可視化することで、職員へ周知し、統一したケアを実施する。
 - ② 事故が発生した状況等について、各種委員会で話し合うことで、他事業所の取組みについて学び、対応策の充実を図る。
 - ③ 多職種と立案したケアプラン内容について、的確に実践することで質の高いサービスを目指す。
 - (2) 認知症に関する研修に参加することで、基本的な知識、技術の向上を目指す。
 - ① 計画的に研修に参加することで、職員個々の対応力の向上に努める。
- 2 運営目標を明確にする事で、経営意識の向上を図り、安定した事業運営を目指す。
 - (1) 年間稼働率 99%以上を目指し、安定した事業運営を行う。
 - ① 毎月の稼働率、収支状況について確認し、増減要因について把握する。
 - ② 地域のニーズを把握する為の広報活動（月 20 件以上）の実施及び、入居者の状態に応じた区分変更を行う。
 - ③ 労務管理について把握することで、計画的な有給休暇の取得、働きやすい職場環境に努める。
- 3 自然災害に備え、事業継続計画の見直し及び避難訓練を実施し、対応力の向上に努める。
 - (1) BCP の見直し、各種災害に対応した訓練を実施することで、職員の意識向上を目指す。
 - ① インサークルを活用した連絡体制訓練を実施し、日頃から操作方法や連絡ツールについて理解する。

専修学校 香南学園

・専修学校 香南学園

・・・P98

専修学校 香南学園

基本方針

専修学校香南学園は、介護福祉士養成施設として確かな知識と技術を身につけた質の高い介護人材を育成し、国家試験全員合格を目指します。

人材不足が深刻な介護福祉士を確保するため、地域との連携を強化し、実践的な教育と学生支援を充実させ、積極的な広報活動を通じて学校の魅力を発信します。

年度目標

- 1 国家試験合格に向けた適切な指導を行う。
 - (1) 国家試験対策に注力し、得点力の向上を目指す。
 - ① 学生に長期・短期目標を掲げさせ、目標の実現に向かった学習に取り組ませる。
 - ② 日本語授業と連携した重要語句・頻出語句等の学習を進める。
 - ③ 個別補講を実施し苦手な科目を克服する。
 - (2) JLPT の N1・N2 合格を目標に、総合的な日本語能力の向上を図る。
 - (3) 教職員の資質向上のため自己研鑽に努め、研修への参加を促進し、学生による授業評価を実施する。
- 2 質の高い学生の確保を行う。
 - (1) 介護福祉士としての適性を重視した選考を行う。
 - (2) 学校訪問やソーシャルメディアを活用し、学校の魅力を広く発信することで広報活動の強化を図る。
- 3 生活支援のため環境の充実を図る。
 - (1) 寮則及び日本の法律を順守し、規律正しい生活を送るよう指導する。
 - (2) 定期的な個人面談を通し、勉学及び生活の不安解消に努める。
 - (3) 適切な在留管理を行う。
 - (4) 学生の心身の健康管理、安全管理を行う。
- 4 地域と協働した教育の推進を図る。
 - (1) 特別授業を通し、地域共生できる学校を目指す。
 - (2) 学生主体の総合避難・自然災害訓練を年 3 回以上実施する。

特別養護老人ホーム おおいずみの里

・特別養護老人ホームおおいずみの里 ……P100

特別養護老人ホームおおいずみの里

基本方針

特別養護老人ホームおおいずみの里は、利用者やその家族、地域のニーズを把握し、多職種が連携したデータに基づく質の高いサービスを提供します。そのため、多様性のある社会において働きやすい職場を目指し、人材育成や人材確保にも注力し事業運営の安定化を図ります。また、地域や公的機関と連携し、災害時の危機管理体制を強化します。

年度目標

- 1 多職種連携した質の高いサービスを提供
 - (1) 多職種でアセスメントを行い、利用者の状態を把握しデータを共有することでケアの質を向上させ、利用者や家族の意見を反映させることでサービスの質を改善する。
 - (2) 最期までその人らしい生活を支援できるよう、利用者の尊厳を守り、多職種で専門性のある認知症ケアや看取りケアを充実させる。
- 2 働きやすい職場づくりや人材育成および人材確保
 - (1) 年5日の有給休暇取得や育児・介護休業、外国人人材も含めた様々な生活様式に対応した福利厚生を充実させ、働きやすい職場づくりを進める。
 - (2) OJTの強化や新人・外国人職員の技術や知識の向上を目指した研修を行い、求人媒体や求人広告を工夫することで介護人材の確保にも努める。
- 3 事業運営の安定化と中間管理職の育成
 - (1) 地域のニーズを把握し、継続性のある広報活動を実施することで、入所稼働率98%、ショートステイ稼働率90%の目標を達成する。
 - (2) 各会議において、運営状況や問題点を共有し、改善、見直しを行うことで中間管理職の育成及びの経営意識向上に努める。
- 4 地域と連携し職員の防災意識向上と危機管理体制の強化
 - (1) BCP等を踏まえた実践的な防災訓練やInCircleを活用した連絡訓練を実施し、緊急時の対応や連絡体制の整備を行うことで、職員の防災意識向上や危機管理体制の強化を図る。
 - (2) 地域や公的機関と連携し、福祉避難所の開設と運営が迅速に行えるよう訓練を実施する。

有料老人ホーム

- ・ 有料老人ホーム ……P102
- ・ 有料老人ホームあさくらの里 ……P103
- ・ 有料老人ホームながはまの里 ……P104
- ・ 有料老人ホームゆりぐるまの里 ……P105
- ・ 認知症デイサービスセンターかがやき ……P106
- ・ デイサービスセンターすみれ ……P107
- ・ 認知症デイサービスセンターさくら ……P108

有料老人ホーム

基本方針

有料老人ホームでは、適時住まいの環境を整備する事で、入居者様に安心して生活を送っていただける環境の提供に努めます。通所事業所では、各職種が連携し質の高いサービスを提供する事で、4大目標の取り組みを推進していきます。また、法人理念に基づき相互が連携を図る事で、安定した事業運営を目指します。

防災対策としては、自然・風水害に対する実践的な訓練を実施し、BCPサイクルの継続的な運用を行う事で、自然災害等に備える体制を構築していきます。

年度目標

- 1 人材育成とチームケアの質の向上、情報共有の効率化を行い、サービスの質の向上を図る。
- 2 経営意識の向上を図り、安定した事業運営を目指す。
- 3 自然災害（地震・風水害・土砂災害）に備え事業所のある地域の実情に即した防災対策を構築する。

有料老人ホーム あさくらの里

年度目標

- 1 人材育成とチームケアの質の向上、情報共有の効率化を行い、サービスの質の向上を図る。
 - (1) 必要な対策を講じ、リスクマネジメント強化に努める。
 - ① 入居者のニーズや状態に添った、環境整備を行う。
 - ② 関係職員と連携し、危険予測を行い事故防止に努める。
 - (2) 入居者の情報を関係事業所と共有し、適切なサービス提供に努める。
 - ① 入居者の思いを傾聴し、要求に速やかに対応できるようにする。
 - ② 全職員研修（法人内、外）に参加し、職員個々の質の向上に努める。
 - (3) 業務の見直しを行い、効率化を図る。
 - ① 業務の内容を明確にし、標準化を図る。
 - ② 業務の課題を分析し見直しを行う。（3ヶ月に1回）
 - ③ 5S活動（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）を行い、職場環境を整備する。
- 2 経営意識の向上を図り、安定した事業運営を目指す。
 - (1) 入所稼働率98%以上を目指す。
 - ① 月75件以上、広報活動を広範囲に展開し、常に待機者3名以上を確保する。
 - ② 入居者の状態を把握し、関係事業所と連絡を図り、健康管理を行い入院や退去者の減少に取り組む。
 - (2) 支出削減に努める。
 - ① 収支を把握し、職員間で情報共有する。
 - ② 適切な空調管理を行う。
 - ③ 全職員が節水、節電を意識し業務を行う。
- 3 自然災害（地震・風水害・土砂災害）に備え事業所のある地域の実情に即した防災対策を構築する。
 - (1) 入居者、職員の安全確保が最優先できる体制を整える。
 - ① 事業継続計画（BCP）に基づいた、実践的な訓練を実施する。（年2回）
 - ② 備蓄の管理、備品の整備を行い、災害に備える。（年2回）

有料老人ホームながはまの里

年度目標

- 1 人材育成とチームケアの質の向上、情報共有の効率化を行い、サービスの質の向上を図る。
 - (1) 4大目標の取り組みを推進し、介護のプロフェッショナルを育てる。
 - ① 多職種との連携を図り、入居者の状態把握し、環境設定等を強化する。
 - (2) 業務の見直しを行い、効率化を図る。
 - ① 業務の内容を明確にし、標準化を図る。
 - ② 業務の課題を分析し見直しを行う。(3ヶ月に1回)
 - ③ 5S活動(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)を行い、職場環境を整備する。
 - (3) 職員個々の資質を向上する。
 - ① ケアの質の向上を目的とした研修に年2回参加する。(全職員)
- 2 経営意識の向上を図り、安定した事業運営を目指す。
 - (1) 入所稼働率98%以上を目標とし、安定した事業運営を目指す。
 - ① 退居してから入居までの日数を1週間以内にしよう待機者を確保する。(常に待機者月5名)
 - ② 月75件以上の広報活動を計画的に実施する。
 - ③ 訪問先で得た情報を集約分析し、効率的な広報活動を行う。
 - (2) 支出削減に努める。
 - ① 光熱水費及び消耗品を節約する。
 - ② 備品管理を徹底し支出の減少を図る。
- 3 自然災害(地震・風水害・土砂災害)に備え事業所のある地域の実情に即した防災対策を構築する。
 - (1) 事業継続計画(BCP)に沿った、訓練を実施する。(年2回)
 - ① 職員個々が災害時に迅速に動けるよう防災関係マニュアルを周知する。
 - ② 備蓄の管理、備品の整備を行い、災害に備える。(年2回)
 - (2) 地域との連携
 - ① 地域の自主防災組織と連携し、訓練を実施する。

有料老人ホーム ゆりぐるまの里

年度目標

- 1 人材育成とチームケアの質の向上、情報共有の効率化を行い、サービスの質の向上を図る。
 - (1) 4大目標の達成に必要な要素を細分化し事業所の質の向上に努める。
 - ① ヒヤリハット等を活用し、情報を共有し、環境整備を行い事故防止に努める。
 - ② 利用者個々の状態に応じたサービス提供を行う。
 - (2) 関係事業所と連携し、適切なサービス提供に努める。
 - ① 職員個々が気づきを持ち、事業所間で連携を図る事で状態に応じた適切なサービス提供を行う。
 - ② 職員個々の質の向上を目的とした研修に年2回参加する。(全職員)
 - (3) 業務の見直しを行い、効率化を図る。
 - ① 業務の内容を明確にし、標準化を図る。
 - ② 業務の課題を分析し見直しを行う。(3ヶ月に1回)
 - ③ 5S活動(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)を行う。
- 2 経営意識の向上を図り、安定した事業運営を目指す。
 - (1) 入所稼働率98%以上を目標とし、安定した事業運営を目指す。
 - ① 月35件以上の広報活動を計画的に実施する。
 - ② 毎月利用者の状態に応じた介護度の適正を図る。
 - ③ 事業所間で連携し、利用者の状態に応じた適切なサービスを提案する。
 - (2) 支出削減に努める
 - ① 収支、収益の意識を持つ。(毎月確認)
 - ② 物品管理や節水、節電に努め、経費節減に努める。
- 3 自然災害(地震・風水害・土砂災害)に備え事業所のある地域の実情に即した防災対策を構築する。
 - (1) 事業継続計画(BCP)に基づいた訓練を実施する。(年2回)
 - ① 定期的な訓練を行い適時計画の見直しを行う。
 - ② 備蓄の管理、備品の整備を行い、災害に備える。(年2回)

認知症デイサービスセンター かがやき

年度目標

- 1 人材育成とチームケアの質の向上、情報共有の効率化を行い、サービスの質の向上を図る。
 - (1) 関係事業所、他職種と連携、情報共有し、統一されたケアを実行する。
 - ① 研修や勉強会に参加し、認知症高齢者の特性を理解した、サービスが提供できるよう取り組む。(全職員)
 - ② ヒヤリハット報告書を活用し、原因を分析し、リスク予測することで事故を防止する。
 - ③ 身体状態に応じた適切な福祉用具を検討し、ノーリフティングケアを推進する。(月 1 回進捗状況確認)
 - (2) 業務改善を行い、生産性の向上を図る。
 - ① 業務を明確にし、役割分担を見直す。(3 ヶ月に 1 回)
 - ② 5S 活動(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)を行い、働きやすい環境を整備する。
- 2 経営意識の向上を図り、安定した事業運営を目指す。
 - (1) 稼働率 98%以上を目指し、安定した事業運営を行う。
 - ① 担当者会議等で情報共有し、利用者の心身状態の把握に努める。
 - ② 利用者の状態の申し送り、また、申し送り後の対応方法を確認し、状態の悪化を防ぐよう関係職種で連携を図る。
 - (2) 必要経費の把握や消耗物品を管理し、経費削減を図る。
 - ① 職員個々がコスト意識を高め経費削減に取り組む。(月 1 回確認)
 - ② 節電、節水に努める。
- 3 自然災害(地震・風水害・土砂災害)に備え事業所のある地域の実情に即した防災対策を構築する。
 - (1) 業務継続計画(BCP)に基づく研修及び訓練を実施する。
 - ① 職員個々が迅速に行動できるよう、災害時のマニュアルを周知する。
 - ② 災害時に備えた実践的な訓練を実施する。(年 2 回)
 - (2) 地域の避難訓練や行事等へ参加し、地域との連携を図る。

デイサービスセンターすみれ

年度目標

- 1 人材育成とチームケアの質の向上、情報共有の効率化を行い、サービスの質の向上を図る。
 - (1) 職員個々の質を向上し、サービスの向上を図る。
 - ① 研修へ参加し、専門的な知識、技術の取得、向上を図る。
(全職員研修参加)
 - ② 利用者とコミュニケーションを図り馴染みの関係性を作り、課題となるニーズを明確しサービスに結びつける。
 - ③ 多職種と連携を図りながら、適切なサービス提供を行う。
 - (2) リスクマネジメントの強化を図り、事故を防止する。
 - ① ヒヤリハット報告書を活用し事故を未然に防ぐ。
 - ② 職員間で情報の共有を図り、対策を行い、統一したケアを行う。
 - (3) 業務改善を行い、生産性の向上を図る。
 - ① 業務を明確にし、役割分担を見直す。(3ヶ月に1回)
 - ② 整理整頓を行い、働きやすい環境を整備する。
- 2 経営意識の向上を図り、安定した事業運営を目指す。
 - (1) 稼働率 98%以上を目指し、安定した事業運営を行う。
 - ① 利用者の身体状態、心身状態の観察を行い、変わった様子があれば関係事業所へ早期に報告を行う。
 - ② 手洗い、うがい、換気等の感染症対策を徹底し感染症予防に努める。
 - (2) 必要経費の把握や消耗物品を管理し、経費削減を図る。
 - ① 職員個々がコスト意識を高め経費削減に取り組む。(月1回確認)
 - ② 節電、節水に努める。
- 3 自然災害(地震・風水害・土砂災害)に備え事業所のある地域の実情に即した防災対策を構築する。
 - (1) 非常災害時に迅速に行動できるようにする。
 - ① 非常災害を想定した実践的な訓練を定期的に行う。(年2回)
 - ② 事業継続計画(BCP)を職員個々が理解する
 - ③ 職員の役割分担を明確にし、責任を持って行動できるようにする。
 - ④ 地域との交流の場に参加し地域のニーズを把握する。

認知症デイサービスセンターさくら

年度目標

- 1 人材育成とチームケアの質の向上、情報共有の効率化を行い、サービスの質の向上を図る。
 - (1) 専門的な知識や技術の向上を図る。
 - ① 研修（法人内外）に参加し、習得した知識、技術を職員間で共有する。（全職員研修参加）
 - (2) 認知症高齢者の特性を理解し、適切なサービス提供を行う。
 - ① 評価、モニタリングを繰り返すことで、職員一人ひとりのアセスメント力の向上を図る。
 - ② 多角的な視点からヒヤリハット報告書を作成し気づきを持ち事故防止につなげる
 - ③ 関係事業所や職種と情報共有し、利用者に応じたケアを行う。
 - (3) 業務改善を行い、生産性の向上を図る。
 - ① 業務を明確にし、役割分担を見直す。（3ヶ月に1回）
 - ② 整理整頓を行い、働きやすい環境を整備する。
- 2 経営意識の向上を図り、安定した事業運営を目指す。
 - (1) 稼働率 98%以上を目指し、安定した事業運営を行う。
 - ① 多職種を含めた職員間の連携とチームワークの強化を図り、利用者の健康管理に努める。
 - ② 手洗い、うがい、換気等の感染症対策を徹底し感染症予防に努める。
 - (2) 必要経費の把握や消耗物品を管理し、経費削減を図る。
 - ① 職員個々がコスト意識を高め経費削減に取り組む。（月1回確認）
 - ② 節電、節水に努める。
- 3 自然災害（地震・風水害土砂災害）に備え事業所のある地域の実情に即した防災対策を構築する。
 - (1) 非常災害時に迅速に行動できるようにする。
 - ① 非常災害を想定した実践的な訓練を定期的に行う。（年2回）
 - ② 事業継続計画（BCP）を職員個々が理解する。
 - ③ 職員の役割分担を明確にし、責任を持って行動できるようにする。
 - ④ 地域との交流の場に参加し地域のニーズを把握する。

特別養護老人ホーム はるえの里開設準備室

・ 特別養護老人ホームはるえの里開設準備室 ……P110

特別養護老人ホームはるえの里開設準備室

基本方針

特別養護老人ホームはるえの里は、2026 年度の開設に向け、各職種の積極的な求人活動を行い、職員の確保を行います。また、各部署と連携して、採用した職員の人材育成に取り組みます。

建築工事については、設計会社や建築関係業者との連携を図り、工事の進捗状況や様々な課題を把握し、工事の遅延がないよう対応いたします。

また、地域住民や行政・福祉・医療等の関係機関との信頼関係の構築に努めます。

年度目標

- 1 開設に必要な人材確保と教育を計画的にすすめる。
 - (1) ハローワーク等の就職支援機関へ定期的に訪問し、情報収集を行なう。
 - (2) 就職説明会の開催や求人サイト等の WEB 媒体を活用し、人材を確保する。
 - (3) 採用した職員は、教育部、人事部等の関係部署と連携し、計画的な研修を実施する。
- 2 開設までのスケジュール管理と地域や関係機関との連携。
 - (1) 建設関係業者との定期的な連絡会をとおり、工事の進捗状況や課題を把握し、スケジュール管理を行う。
 - (2) はるえの里が地域資源として認知されるよう広報活動を実施する。
 - (3) 広報活動をとおり、関係機関との関係構築を図る。